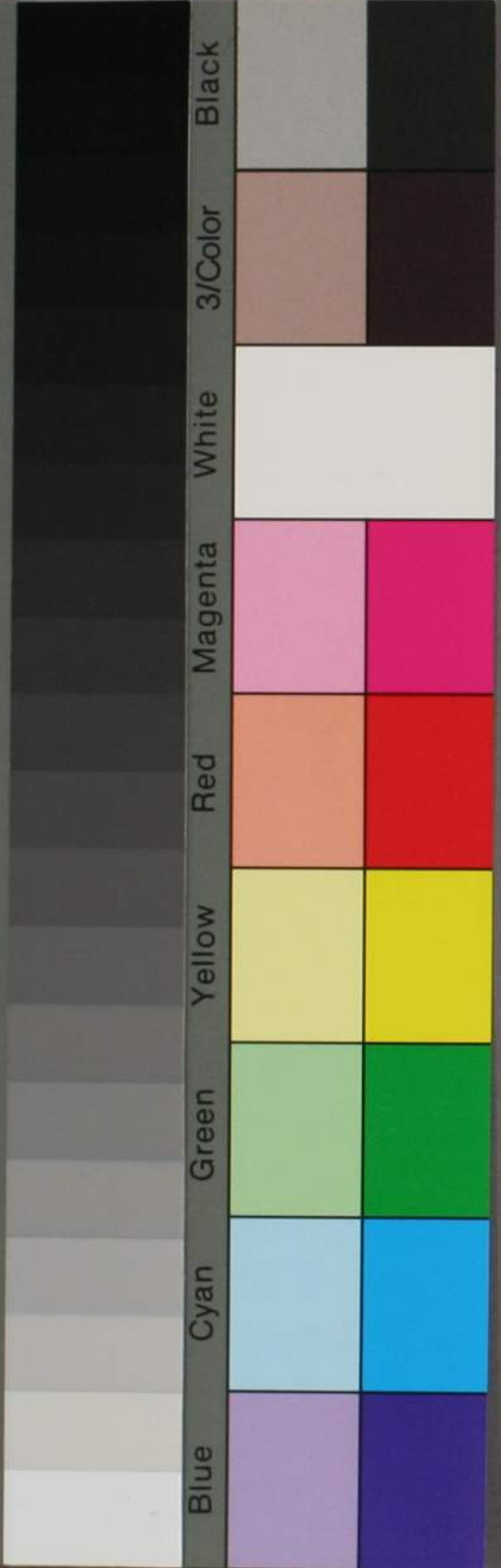


Kodak
LICENSED PRODUCT

C Y M

KODAK Gray Scale

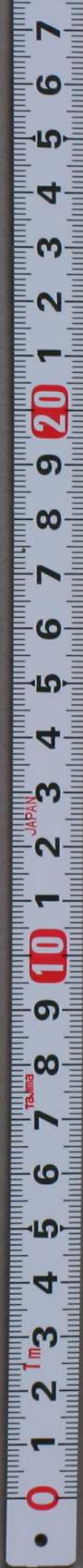
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



圖解

量地指南前編
中

洋学文庫
文庫 8
C 299
2





量地指南卷之二

勢南 處士 村井昌弘編述



量盤術遠近法上

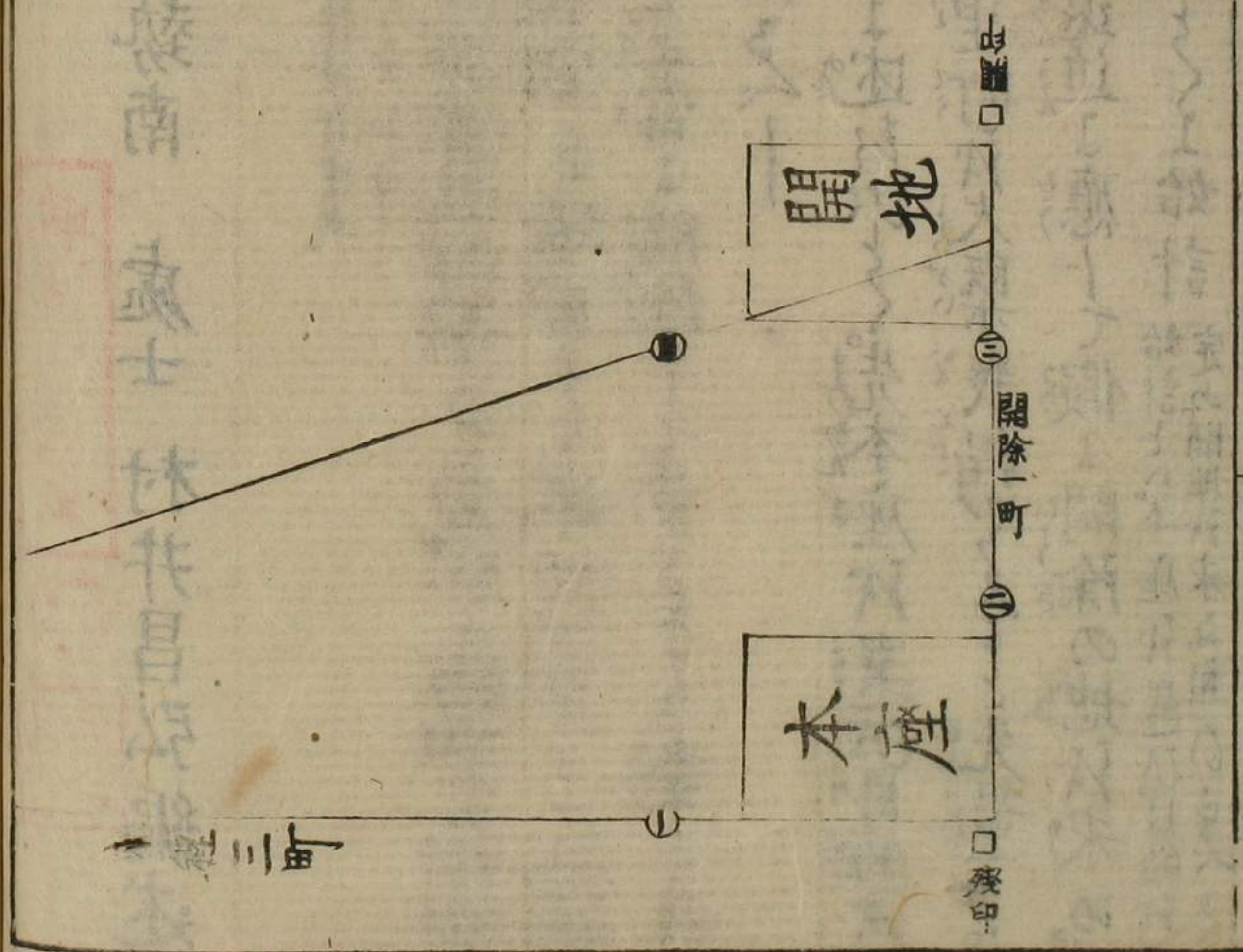
左右正開方

爰小ハ右正開の作法外述也。左正開の法も准して知たべし。

此術ハ廣野平易又ハ海濱田面等ふて。左右ハ觀察の妨障なく。開地心ハ任まらば求安き場取より。遠程ハ量るるに用也。其法左右何れも成ると。正當ハ開除して量るなり。委くは術中ハ記と勤く知るべし。

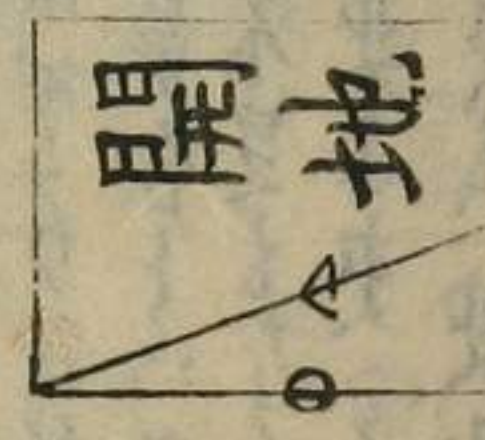
術云下ハ圖をとりて。往々初卷ハ述ぶとく。先本座ハ選比目的に定め。本座より目的までの里町ハ大槩ハ幾程なるかと先量し。先量しハ。空の目づより外云。其法ハ。初卷ハ述ぶとく。其遠近ハ應じて假し開除の地ハ求め。開除の作法ハ。大畧古法の。かたは。始計ハ。開除の地ハ。求むる類ハ。比ぶる。

盤方居る以前の法云。の作法
 以下は自是よりなすぬを。の作法
 采心く整正ひてのち。①本座よ
 盤方方正よ居。盤北は此と。
 盤東は左と。盤西は右と。定規を
 とし。每術こゆるおれ。定規を
 こゆる。定規ハ見込見通再見見返
 いはまことこゆる用べし。
 盤東より正よ目的は見込
 其盤方揺らぬやうに居置
 見通の法おろし。本座の盤方
 とこし。毎術こゆる事。每術おれ
 ②始計小く假よ。右方へ定置
 正よ間敷。右間敷を量り。彼方へ
 開印は立さるや。今こゆる。求程の



町敷三町のとこハ開除の間敷
 六間とする事。古法三十分一
 相叶とす。下は図す所ハ
 小畷ちり。其織密。一町
 が。畷して三分一を用ひ。一町
 の開と定む。往々後章より取と
 見。即定規を
 盤北よ載正よ彼印を見通
 開印と定規と。正よ合とこハ
 若不合とこハ。いく。彼印は
 進退。定規と。然りて
 正よ合とこハ。開地へ迂む
 本座よ残印を立す事
 每術同じ。下是よ倣へ。③開地よ
 い。定規ハ盤北よ載せ
 残印は再見。盤方
 正小居。残印と定規と。合とこハ
 不合とこハ。

大成之圖



此は口ハ三也開除一町ノ縮ナリ
 此〇所ハ四也求程三町ノ縮ナリ
 今渾發ヲ以テ口ヲ一変ニ変ニ
 一町ノ矩ト名ケ其矩ヲ以テ〇ヲ
 量ルニ三変アリ三変ハ三町ナリ
 是求程ノ町敷ナリ
 此△所ハ五也假借トテ假物ナリ
 故ニ大成ノ後ハ省ヒテ不用ナリ
 凡量知ク作法毎術此例ニ倣ヒテ
 察スヘシ委ハ本文ニ記ス又初卷
 ニ往テ審カニスヘシ

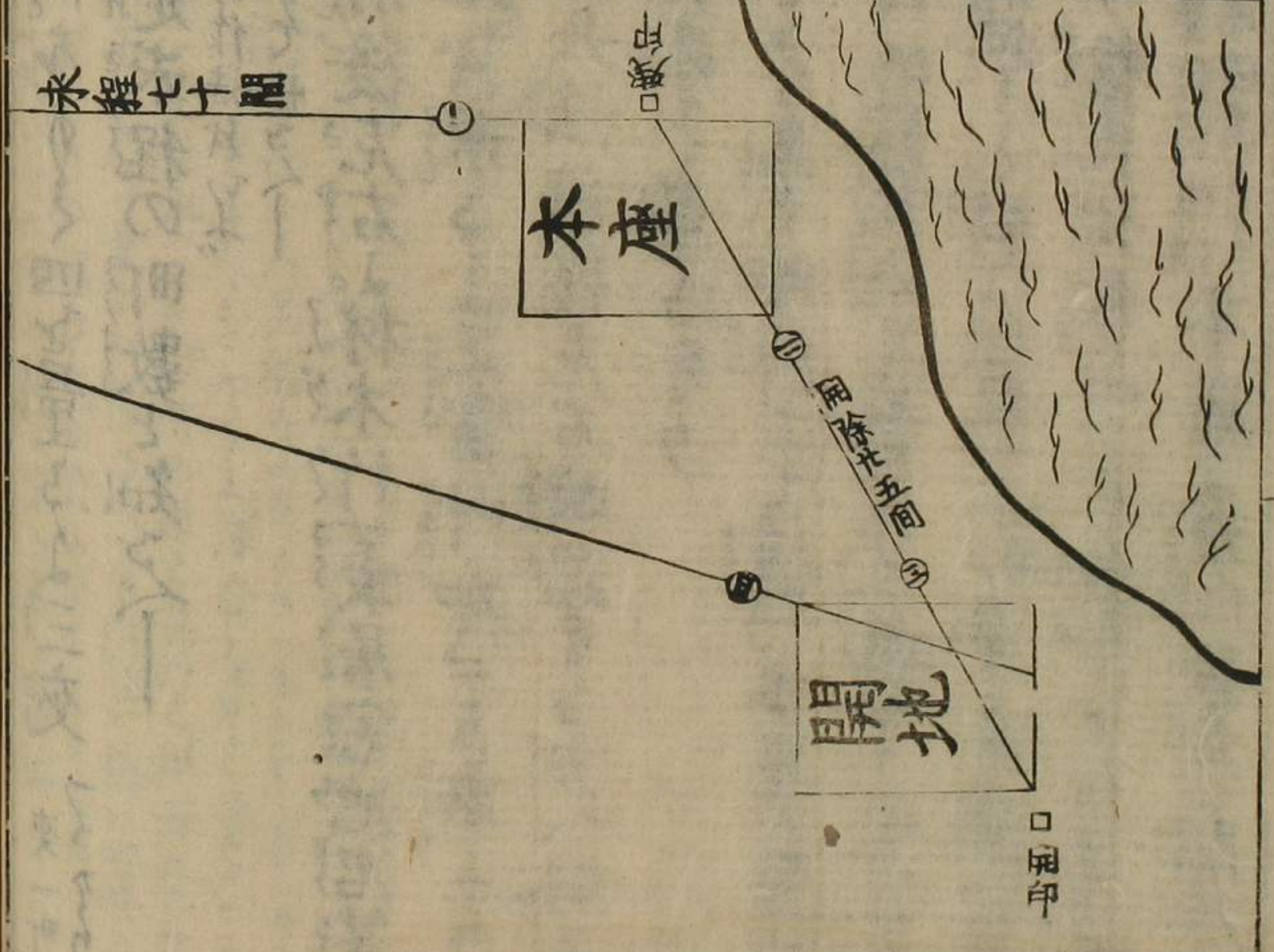


幾度も盤法居直して殘印と正しきべし。尤此再見の法ハ、用地
 めく。盤法方正居直しき為の作法の^一別用^二あり^三。④其再見
 たる盤の^一定^二作^三法の^一再見^二たる^三盤^一異^二會^三小^一。必しも
 會^一よ^二さ^三ふ^四ハ^一の^二目的^三の^一遠^二近^三、用^一除^二の^一多^二少^三、斜^一は^二定^三規^一に^二載^三て^一見^二返^三。
 りりて、異^一ち^二る^三べし。爰ハ、圖^一を^二取^三り^一て、^二目^三的^一と^二定^三規^一の^二本^三と^一末^二と、^三所^一を^二一^三平^一に^二成^三や^一り。即^一定^二規^一は^二隨^三て^一盤^二面^一に
 幾^一びも^二定^三規^一を^二置^三直^一して、^二目^三的^一の^二よ^三う^一に^二合^三さ^一す。即^一定^二規^一は^二隨^三て^一盤^二面^一に
 墨^一法^二引^三盤^一面^二墨^三法^一引^二作^三法^一。然^一ら^二し^三と^一ら^二ハ^一鈎^二股^三弦^一三^二四^三五^一の^二形^一
 盤^一北^二ハ^三三^一ナリ。盤^一東^二ハ^三四^一ナリ。今^一引^二渡^三し^一て、盤^一中^二の^一墨^二ハ^三五^一ナリ。
 盤^一面^二大^三成^一と
 今^一現^二在^三所^一の^二三^一ハ^二開^三除^一一^二町^一の^二縮^三なり^一。四^一ハ^二求^三程^一の^二縮^三なり^一。五^一ハ
 假^一借^二の^一縮^二なり^一。用^一除^二ハ^三本^一座^二より^一用^二地^一ま^二じ^三の^一遠^二程^一。求^一程^二ハ^三本^一座^二より^一目^二的^一
 を^一開^二除^一の^二間^三數^一一^二町^一は^二量^三り^一合^二さ^一す。量^一合^二さ^一すハ、其^一縮^二を^一山^二而^三より^一山^二而^三ま^一じ^二右^一余^二も
 其^一法^二渾^三沌^一を^二用^三ひ^一て、此^一三^二を^一一^二変^三に^一変^二に^一して、一^一町^二の^一矩^二と^一ら^二ひ^三け^一く。但^一渾^二沌^一を
 と^一と^二量^三り^一合^二さ^一す事^一。何^一れ^二の^一術^二あ^三ら^一も、二^一変^二ハ^一際^二を^一ま^二じ^三其^一縮^二の^一廣^二さ
 時^一々^二五^一変^二し^一て、十^二変^三し^一て、一^一町^二の^一縮^二口^一を、五^二変^三し^一て、其^一縮^二の^一廣^二さ
 十二^一間^二の^一矩^二と^一定^二規^一を、十^二変^三し^一て、其^一縮^二の^一廣^二さ^一を、六^二間^三の^一矩^二と^一定^二規^一を、勿^一論^二なり^一。

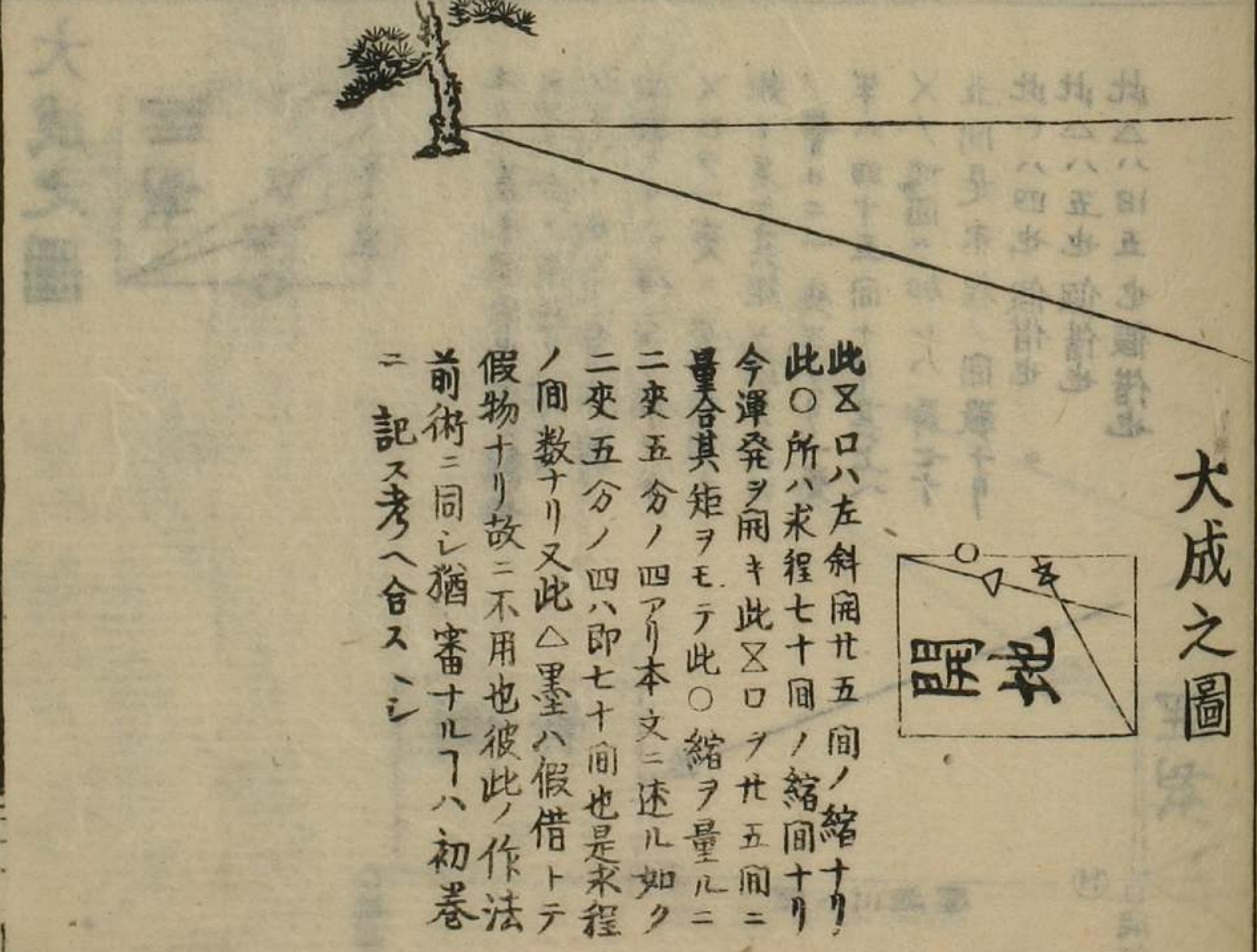
其^一矩^二其^一矩^二ハ^一渾^二沌^一を^二用^三ひ^一て、^二四^一を^二量^三り^一て、三^一変^二一^一町^二の^一縮^二口^一を、^二下^三皆^一お^二ゆ^一り
 あり。三^一変^二ハ^一即^二三^一町^二なり^一。是^一求^二程^一の^二町^三數^一と^二知^三る^一べし。
 左^一右^二斜^一開^二方^一。爰^一ハ、左^二斜^一開^二の^一作^二法^一なり。
 此^一術^二ハ^一本^二座^一の^二地^三形^一前^二後^一左^二右^一。林^一木^二竹^一叢^二居^三宅^一池^二沼^一等
 一^一の^二障^三り^一。開^一地^二を^一求^二る^一は^二正^三當^一叶^二が^一こ^二と^一取^二り^一。
 遠^一程^二を^一量^二り^一て^二用^三ひ^一て、其^一法^二前^三後^一左^二右^一順^二路^一なる^二方^一へ^二好^三小
 向^一て^二斜^三當^一に^二開^三地^一を^二求^三る^一量^二り^一なり。
 術^一云^二下^一は^二當^三と^一れ^二作^三法^一れ^二ど^一と^二品^三々^一始^二計^一して^二後^一①本^二座^一ハ^二盤^三法
 方^一正^二ハ^一居^二盤^一西^二より^一正^二ハ^一目^二的^一を^二見^三込^一。其^一盤^二法^一不^二揺^三や^一小^二居^一置
 ②假^一ハ^二左^一方^二の^一定^二置^三を^一多^二に^一開^二地^一を^二求^三る^一。斜^一ハ^二間^三數^一を^二五^一間^二量^一り^て開^二印^一法
 立^一させ^二。即^一盤^二西^一の中^二程^一より^二盤^三良^一法^二會^一小^二して^一彼^二印^一を^二斜^三見^一通
 定^一規^二は^一隨^二て^一墨^三法^一引^二前^一の^二ど^一と^二し^一本^二座^一ハ^二殘^三印^一法^二立^一③開^二地^一は

墨^一法^二引^一作法^一。前^二の^一ど^二と^一し^二本^一座^二ハ^一殘^二印^一法^二立^一③開^二地^一は

いづりて。本座を引く。盤面の墨は定規を以て。残印は再見して盤は方正に居。盤面の墨と残印と。一盤は直して方正。幾度も居る事。前の通り。④其盤北より盤坤を會小して斜に目的は見返。定規は随ひて黒を引然るときは斜に三四五の形。盤西より盤坤へ現き。用也。盤北より盤乾へ現き。不用。ハ不用。今現る取れ。三ハ開除



左斜間 北五間の縮なり。四ハ求程の縮なり。五ハ假借の縮なり。其三を開除の間數。北五間。量合。此三を一変。其口は北五間の矩と名くる事。前より如し。其矩其三ハ変。北五間の矩なり。を以て。四ハ量る。二変五分の四。五分の四と。右二十五間の矩を五分よりして其四分をいふ。二変五分の四。即七十間。二変ハ五十間なり。五分の四ハ北間なり。都合遠程七十間と知なり。是求程。本座より目的の間數と知るべし。

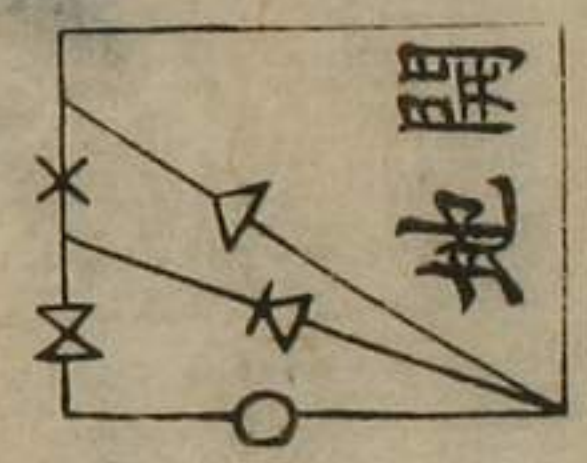


此区口ハ左斜間北五間ノ縮ナリ。此〇所ハ求程七十間ノ縮間ナリ。今澤発ヲ用キ此区口ヲ北五間ニ量合其矩ヲモテ此〇縮ヲ量ルニ二変五分ノ四アリ本文ニ述ル如ク二変五分ノ四即七十間也。是求程ノ間數ナリ。又此△墨ハ假借トテ假物ナリ。故ニ不用也。彼此ノ作法前術ニ同シ。猶審ナルハ初卷ニ記ス考ヘ合ス。

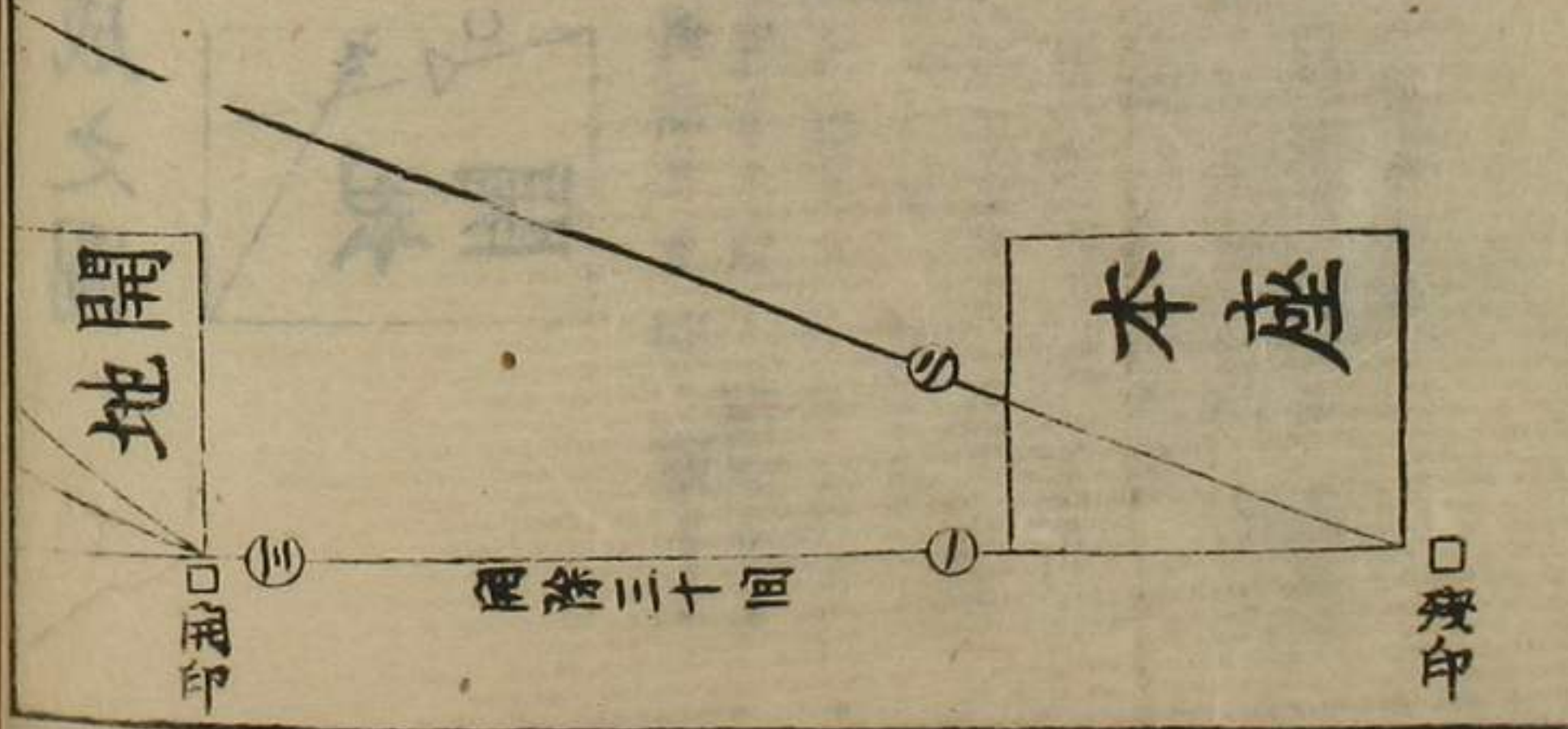
前後當開方の作法は前當開

後當開もこれよ
 此術ハ本座の地形或ハ
 礮塘田疇又ハ窄道橋上
 等して左右へ正しと
 斜しと開地求がこと取
 り遠程を量る用也
 其法前後何れへ成とも
 勝手より一方へ正當
 進退して開地を求め
 量るなり但此術ハ目的
 の外は假目的と定め其

大成之圖

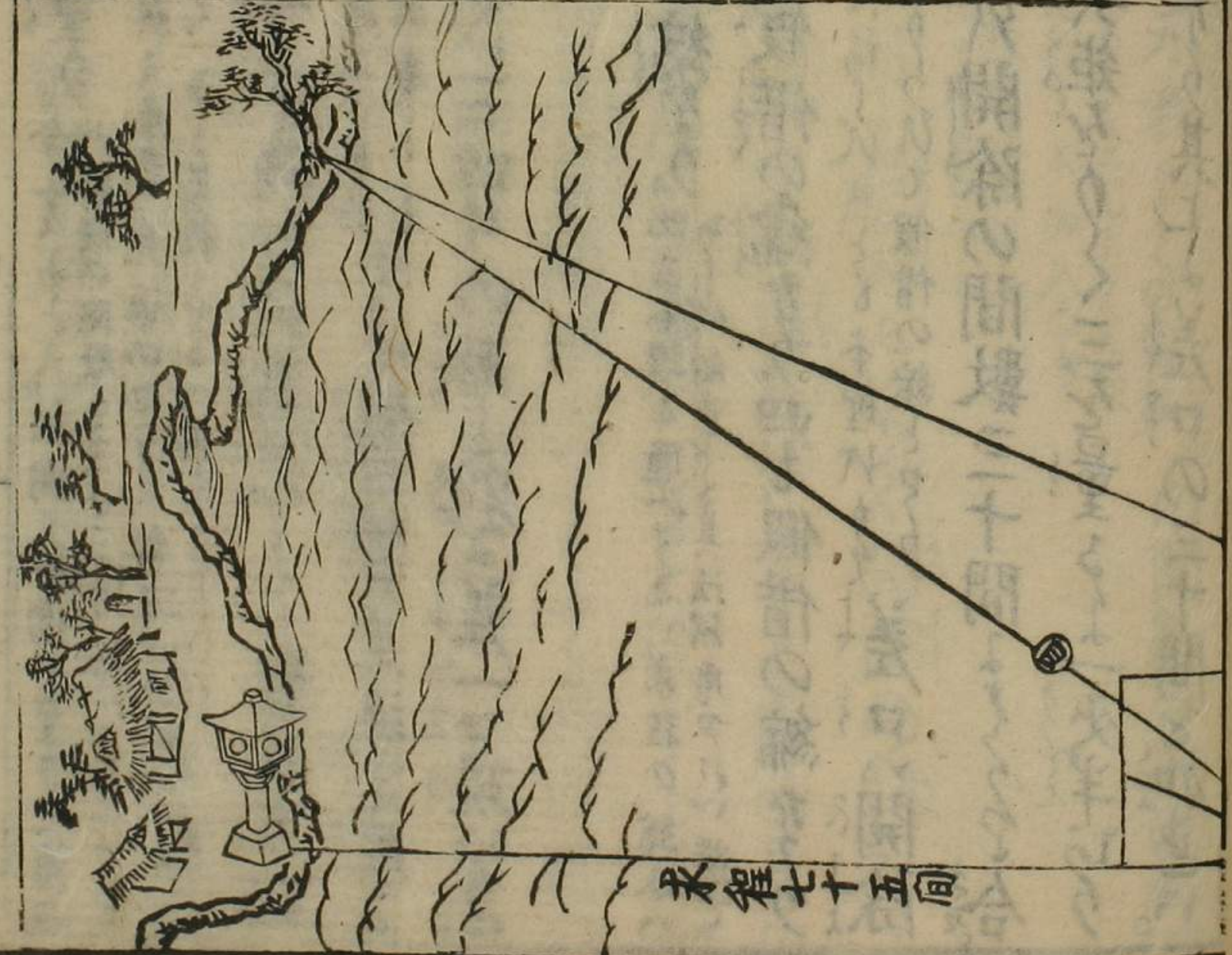


此ハ差也開除間ノ縮也
 又△ト合メ求程ノ縮トス
 此△ハ三也△ト合メ求程ノ
 間数ナリ今渾奈ヲ開キテ
 ×ロヲ一夾ニ夾ミ間ノ
 矩ト名ケ其矩ヲ以テ△ロ
 フ量ルニ一夾半アリ一夾
 半ハ四十五間ナリ其上へ
 ×ノ間ヲ加レハ即七十
 五間是求程ノ間数ナリ
 此○ハ四也假借也
 此△ハ五也假借也
 此△ハ八五也假借也



兩目的の間の間數と種
 々進退の間へ移し
 量るなり其より事
 々術中よ記と

術云下は因とる 品々作法の
 ぶとく始計と後一本座
 盤狀方正よ居盤東より
 正よ本目的の見込其盤と搖
 前の事二其盤良要
 小一定規斜載せ假
 目的へ見込墨引夫より
 正よ不外やよ彼方へ竿と



とく何程少くも間敷を量り。今爰ゆくハ前用三十間を量りて用也。
此前用の間敷もさう三十間分一をさすと
 開印立此時一本座の盤以具俣より居置見通の心より本座より
 残印立立置本目的と此用印と定規と一平見渡よりハ弥わくより本座より
 小極④盤良法要最初本座より見込少くも假目的見返定規より
 随ひく墨引然らざるは三四五の形と別な差一口現はす
 即盤面大成と

今現於所の三の求程の縮なり。此三本理に随ふこと其法は用かれは還て
其術数よりハ故今畧法は五の假借の縮なり。四も假借の縮なり
とらひくニを求程の縮と四もまこと本理をのりてハ假借ハ何れハ然れども本理ハ何れハ
四もまこと本理をのりてハ差口の開除
 前當用の縮なり其差口ハ開除の間敷三十間より合
三十間の渾算をゆく此差口を一変二其矩をゆくニを量るより一変半より
來其口ハ三十間の矩と一変半ハ四十五間なり其上は差口の三十間を加は

都合七十五間なり是即求程本座より目的の間敷なり前用の

作法なり後用の量法ハ差口ハ何れハ三をゆく
 即是求程とハ差口をハ其遠程ハ不加入り

殘子一開方前種と殘と法も推知と

此術ハ本座と開地との間ハ沼河より開除の間所

幾許もくろくがさ場所少く遠程ハ量るより用也其法

開除の間敷ハ應じて本座の前後ハづまへ成と正當

の間敷ハ定め種印立立置開地より時此種の

印ハ見返てもハ開除の間敷ハ量知種印ハ用と

然しそのら其求程本座より目的を量り知るなり開除の間は

此術を母事可なりよりハ勤く知べし

術云下は図より作法のごとく始計しそのら①本座ハ盤ハ

方正ハ居盤東より正目的を見込②其盤東の正中より

とこー下方少く正開地

右の方を見通 此開地の印ハ

有合てる品物以用へ。若其品

定規は随く墨を引三次に

間敷以定十五間本座の後小

正種印以立と也。此種印ハ

よ立ても其術ハおめり本座より

種印まくの同敷ハ大旨開除の同

敷以空取まつりて。半分又も

三分一やど以用事より云

本座より此印を立亦正

見込然しそのら残印を立

開地の印さくハ四開地は移り

係印を立立ハ四開地は移り

盤中より引く墨は定規を

當殘印以再見して盤以居

五其殘印以再見して盤以居

盤西の墨乃端と要し

種印以見返墨以引六又

同取以要ふめり目的以

見返墨以引然と時ハ

盤東と盤西と上下兩取

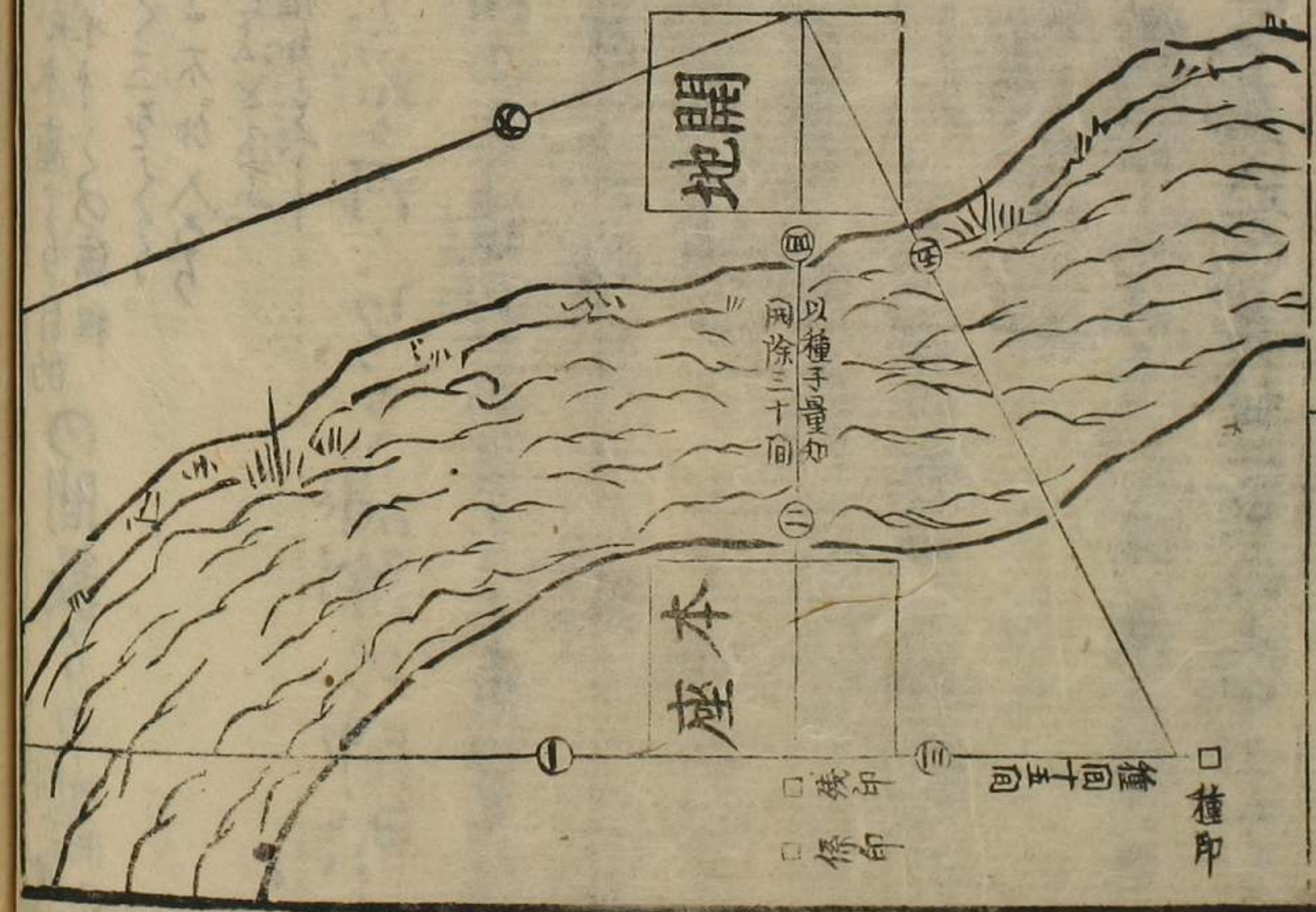
三四五の加つりつり

盤面大成と

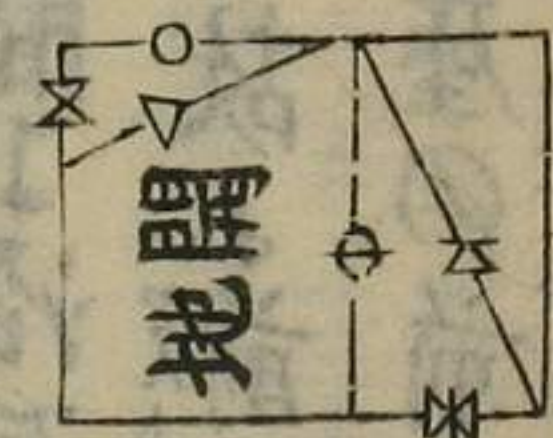
今現る所の盤ハの三四

五ハ本座開地種印の縮形

なり其三を種間の同敷



大成之圖



此区ハ種向十五間ノ縮口ナリ
 此ハ求ル所ノ開除ノ同敷ナリ
 此ハ種子ノ假借ナリ区ノ口ヲ
 以テ○ヲ量ルニ二変アリ二変
 ハ即三十間也是求ル所ノ開除
 ノ同敷ナリ
 此区ハ開除三十間ノ縮口ナリ
 此○ハ求程七十五間ノ縮口ナリ
 此ハ假借ノ縮口ナリ区ノ口ヲ
 以テ○ヲ量ルニ二変合其矩ニテ
 同敷ナリ猶巨多ノ前術ニ依テ
 推知スヘシ



求程七十五間

の間數十五間は量合其矩此矩種間の間數十五間の矩なり是は開除の間の數を知へる爲のその矩にして別用ありをのり其四は量るよ二変りり二変ハ即三十間是開除の間數なり此三十間と本場の三の縮口は各々量合なり盤西の三四五本座目的開地ハ縮形あり其三は種の爲は量知る開除の間數三十間より合三の縮口長短ハやと有と種は爲は量得る同數より合とをり其矩盤西の三ハ一変一変をのり其四求程の縮口なりと量るよ二変半一り一変二間二変半ハ即七十五間なり是求程の間數なり

正當兩開方

此術ハ本座と開地との間ハ沼河田畑などりて開除の間數幾許とを量かこ故前術の如く種印は残して開除へことすとも本座の前後もまた數多障たりと其事成かこ取り遠程は量るよ用也其法開地の

外ハ又正當ハ小開の地ハもあはれり開除の間數ハ量り別ハ小開に設けし事多開除の間數を量る爲のなり外ハ子細有るなり然るてのら

其遠程ハ求め量るなり其より一と事々術中ふとる

猶又圖を按しておれべし

術云下は図とする作法はごとく品々始計して後一

方正ハ居盤西より正ハ目的を見込三例の如く本座ハ殘印

此殘印の立つてもを立其印より五七間をり除いて正ハ係印

残印と係印と向の間數果よを立此二本の印正ハ不合時々開地の正當定りがかり尤念ハ入る立置べさなり

開地の印ハ見通ごとく本座の盤本座より目的を見込

あく彼二本の印と盤面の定規と三所一正ハ見渡此見渡即見通

三開地はより盤は假ハ居る盤北より彼二本の印と三取

一正ハ再見一二本の印ハ一本は見ゆるなりより正ハ合せく

見ゆることこなり即正はかりよりより正ハ合せく

量地指掌卷二

盤方正極四

然して其盤の彼方

正面は小開の地

求め前當用

用地の印より小開の印

まぐ同繩同竿を用いて

何やどくも同敷を定む

べ。大躰其同敷ハ本用

の半分。三分一程

を其法よりさへ開地

より正は是を見通

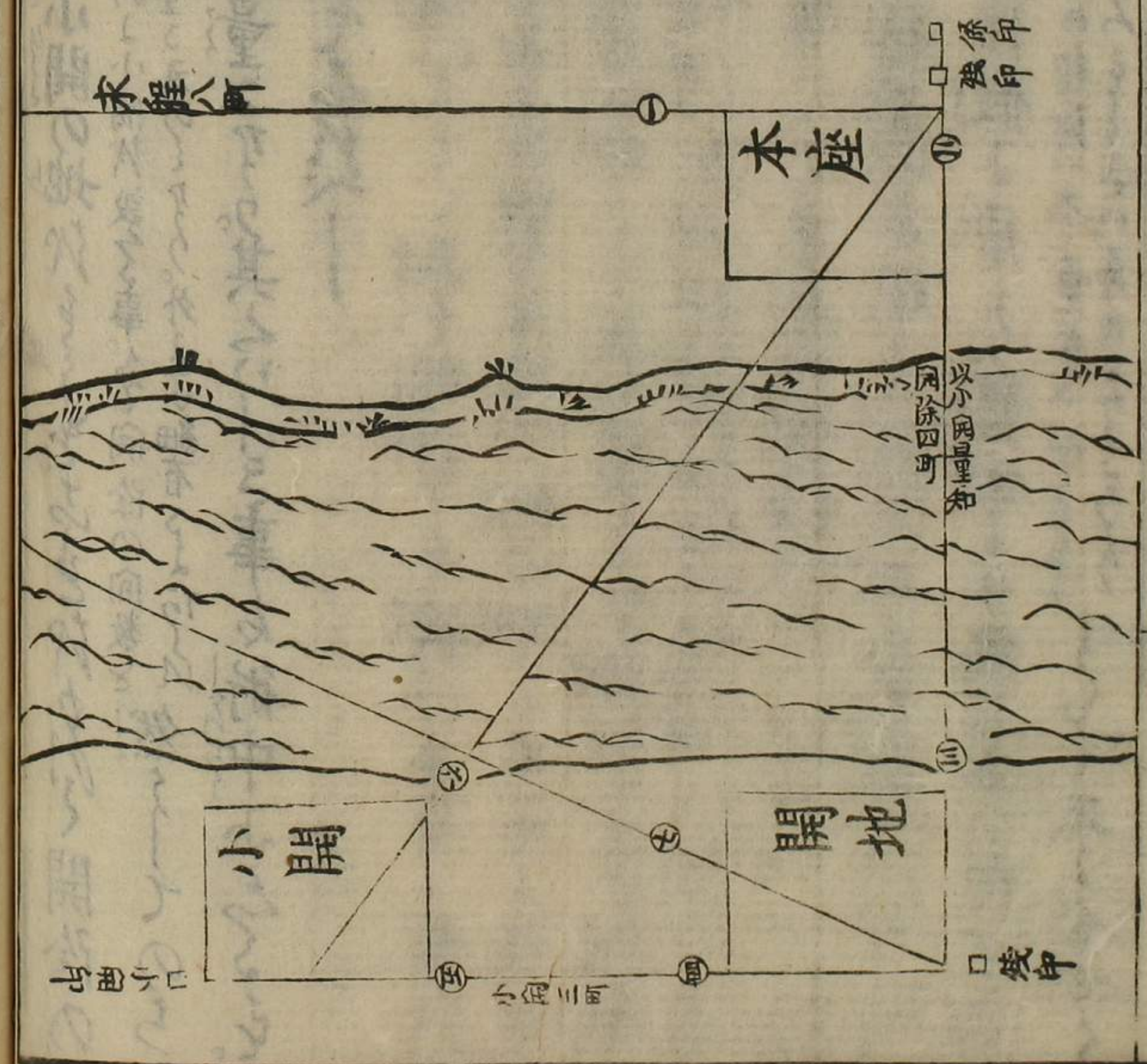
五 扱小開の地は迂り

盤状居く開地印を

再見 用地印は残印

として再見と

六 又盤面は定規を



載て本座の残印は

見返墨は引爰り

おのく種の三四五の

形現つる。三八小開

の縮なり。四ハ本開

の縮なり。此三を小開

の三町は量合其矩

小開の町敷

三町の矩

量より一夾三分一

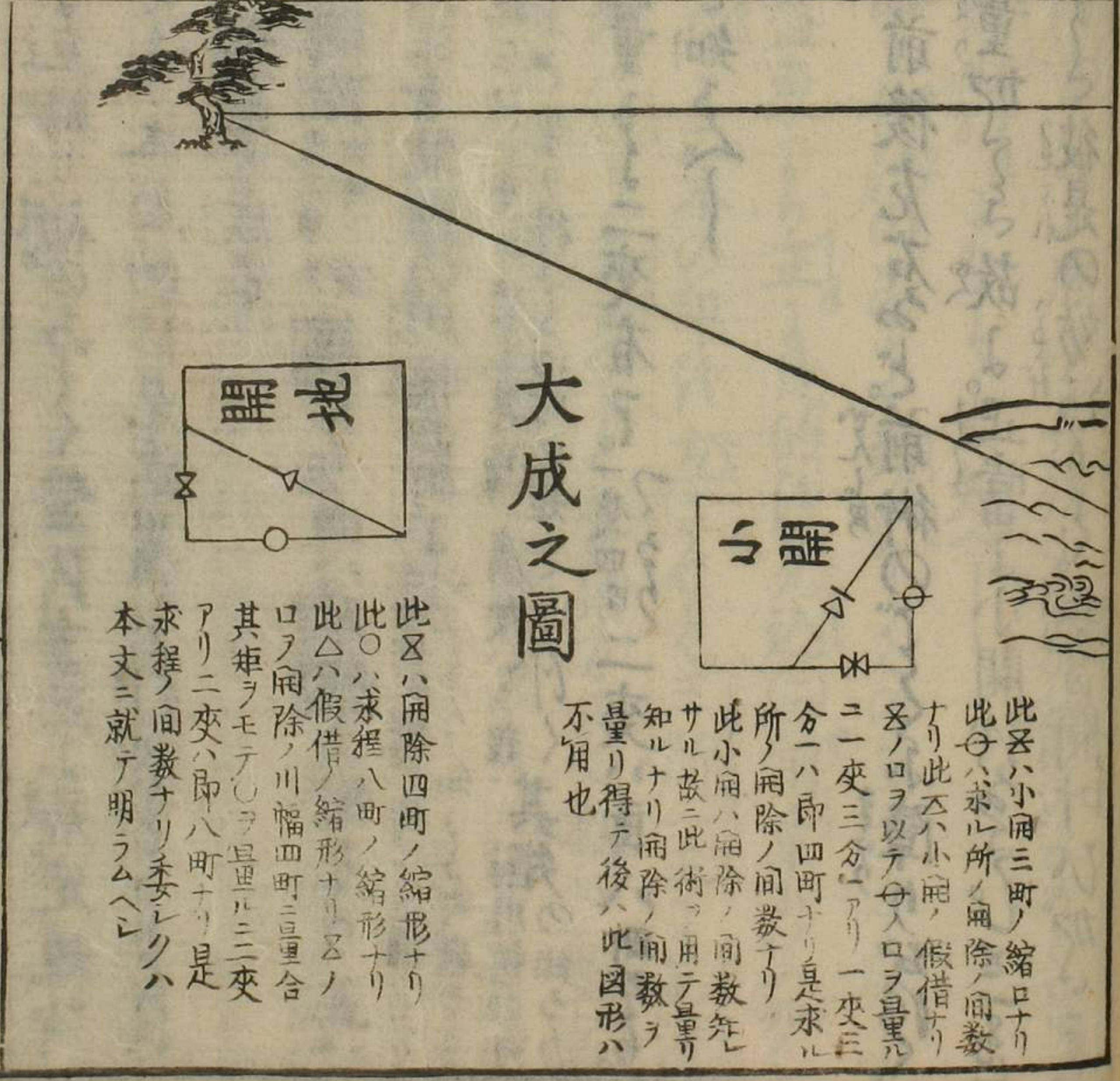
あり。二夾ハ三町より

三分一ハ四町より即

開除の川幅四町と

量知此四町を後の三

縮口よりさへ



大成之圖

此区ハ小開三町ノ縮口ナリ
 此ハ求程八町ノ縮形ナリ
 ナリ此ハ小開ノ假借ナリ
 区ノ口ヲ以テハ口ヲ量ハ
 ニ一夾三分一アリ一夾三
 分一ハ即四町ナリ是求
 所ノ開除ノ間敷ナリ
 此小開ハ開除ノ間敷知
 サル故ニ此術ヲ用テ量
 知ルナリ開除ノ間敷ヲ
 量リ得テ後ハ此図形ハ
 不用也

此区ハ開除四町ノ縮形ナリ
 此ハ求程八町ノ縮形ナリ
 此ハ假借ノ縮形ナリ
 ロフ開除ノ川幅四町三量合
 其矩ヲモテハ量ルニ二夾
 アリ二夾ハ即八町ナリ是
 求程ノ間敷ナリ委レクハ
 本文ニ就テ明ラムヘシ

⑦然して後開地は立歸り。初のおとく盤は方正は居。定規は斜に載せしめ盤はより本目的は見返墨を引然してとて三四五の形現し。盤面大成と

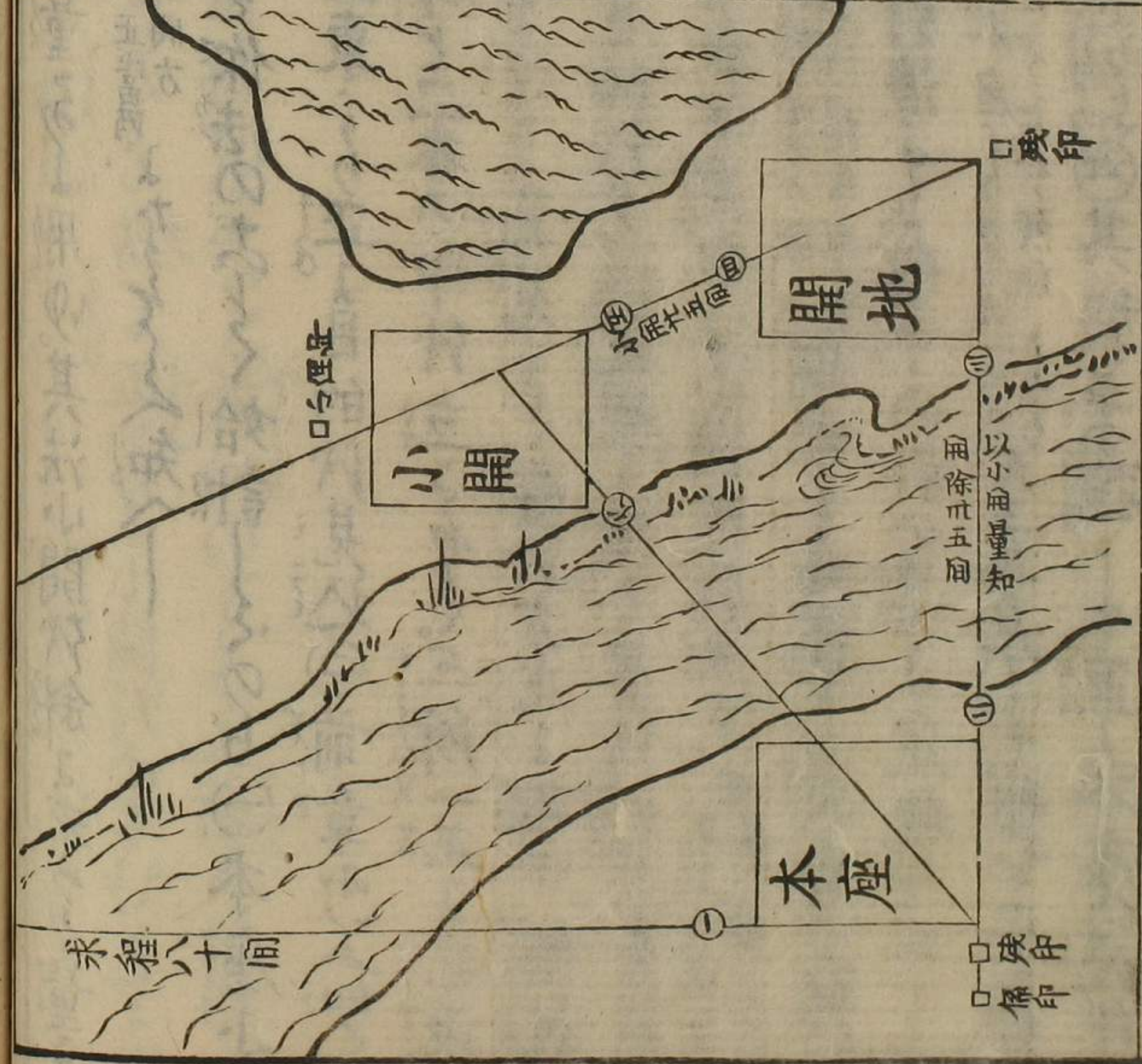
今現る所の二八開除左正用の縮なり。四八求程の縮なり。五八假借の縮なり。其三を開除の川幅四町此四町八種の為は小用。別は四町知る町数なり量合渾在ひかり。此三は一変は変。其口の廣狭は程其矩の矩なり。是求程の間數と知るべし。

正斜兩開方

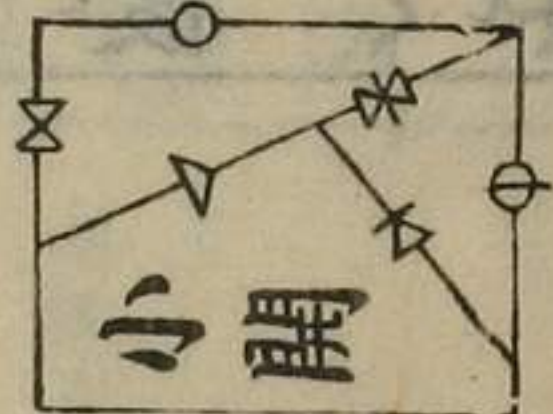
此術は本座の前後左右など。前術のごとく不障りなり。開除の間數量がごとく故は。正當は小開はるる。とて。其地も。彼是の妨げ。正當開叶ひが。取より。遠程は量る。用ゆ。其法小開は斜に求る。量る。かり。大畧前術正當用方よたごころ知べし。

術云下は因とれ品々作法のとおとく始計し。のり①本座小盤は方正は居。盤東より正は目的は見返②前章小は如く其所は殘印と係印と二本の印は立させ。三所一正は見渡。是見通の③扱開地は迂り。再見し。盤は方正は極④盤乾を要し。斜は本目的は見返。定規は隨て墨は引。其墨は條理し。彼方へ間數を定斜は小開印は立させ。正は小開を不得正し。此墨は隨ぐ。斜を用ゆ。開地は殘印と立⑤即小開の地はより。開地は引渡。盤中の斜の墨は定規を以て。開地の殘印此殘印は。本座より見通を再見して。盤を正し居。又此取。本目的を見返す。⑥其盤を不揺して直は本座の殘印

を見返。定規は随て
墨は引。然るもことさ
盤の南北兩所は三四
五の形はつゞき。盤面
大成と
今現る取の盤北の
三四五。本座開地
小開の縮形なり。其
三を小開の間數二十
五間は量合其矩を
其四を量るは一夾と
五分の二あり。一夾ハ
廿五間



五分二ハ 即開除の間
十間あり 數三十五間と量知
此三十五間を後の
三の縮口よりなぐく 扱亦
盤南の二を 開除乃
川幅廿五間を量合
量合の作法。往々前術は
述る取は推して知る
其矩 開除の川幅 少く
四を量るは二夾と
七分の二あり。二夾ハ
七十間
七分二ハ 二夾七分二ハ
十間あり 即八十間なり。是求
程の間數あり



大成之圖

此は小開廿五間ノ縮口ナリ
此ハ求ル所ノ開除ノ間數ナリ
此ハ小開ノ假借ナリ又ノロラ
以テラ量ルは一夾五分ノ二
有リ一夾五分ノ二ハ即廿五間
ナリ是求ル所ノ開除ノ間數
ナリ
扱此ハ開除廿五間ノ縮口ナリ
此ハ求程八十間ノ縮口ナリ
此ハ假借ノ縮口ナリ又ノロ
ラ開除ノ廿五間ニ量合其矩
ヲ以テノロラ量ルニ二夾七分
ノ二アリ二夾七分二ハ即八十間
ナリ是求程ノ間數ナリ猶又
本文ニ考合スヘシ



兩知一開方 爰不ハ。左右を量る法なり。

前後を量るも其術らおゆ

此術ハ今此所よりして

或ハ左右の遠程を量

或ハ前後の遠程ヲ知

むと欲するも一術を

とらと兩旁の求程を

一同に量知る小用也。

其法本座ハ正中ノ

敷く左右も前後

もくも。心よはうの

量るかり。猶又圖を按

とく工夫とべ

術云下ノ圖すまが作法の

おとく品々始計してのら一

本座ハ盤ハ横小方正ノ居

盤南と右よなり 盤北を左よなり

盤東を被よなり 盤西を此よりと

盤西より右方の目的を正よ

見込(二)同所より左方の目

的を正よ見込(三)扱開除の

間數(前當用)を定む。彼正よ

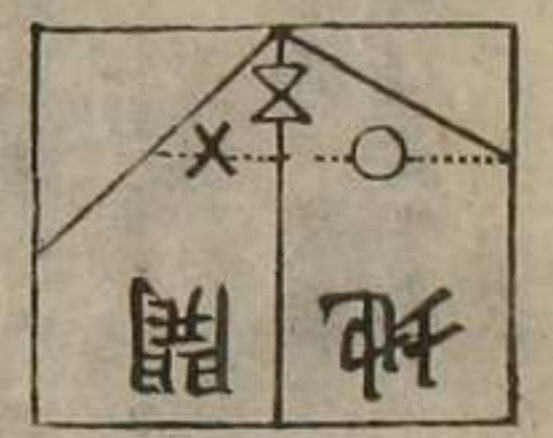
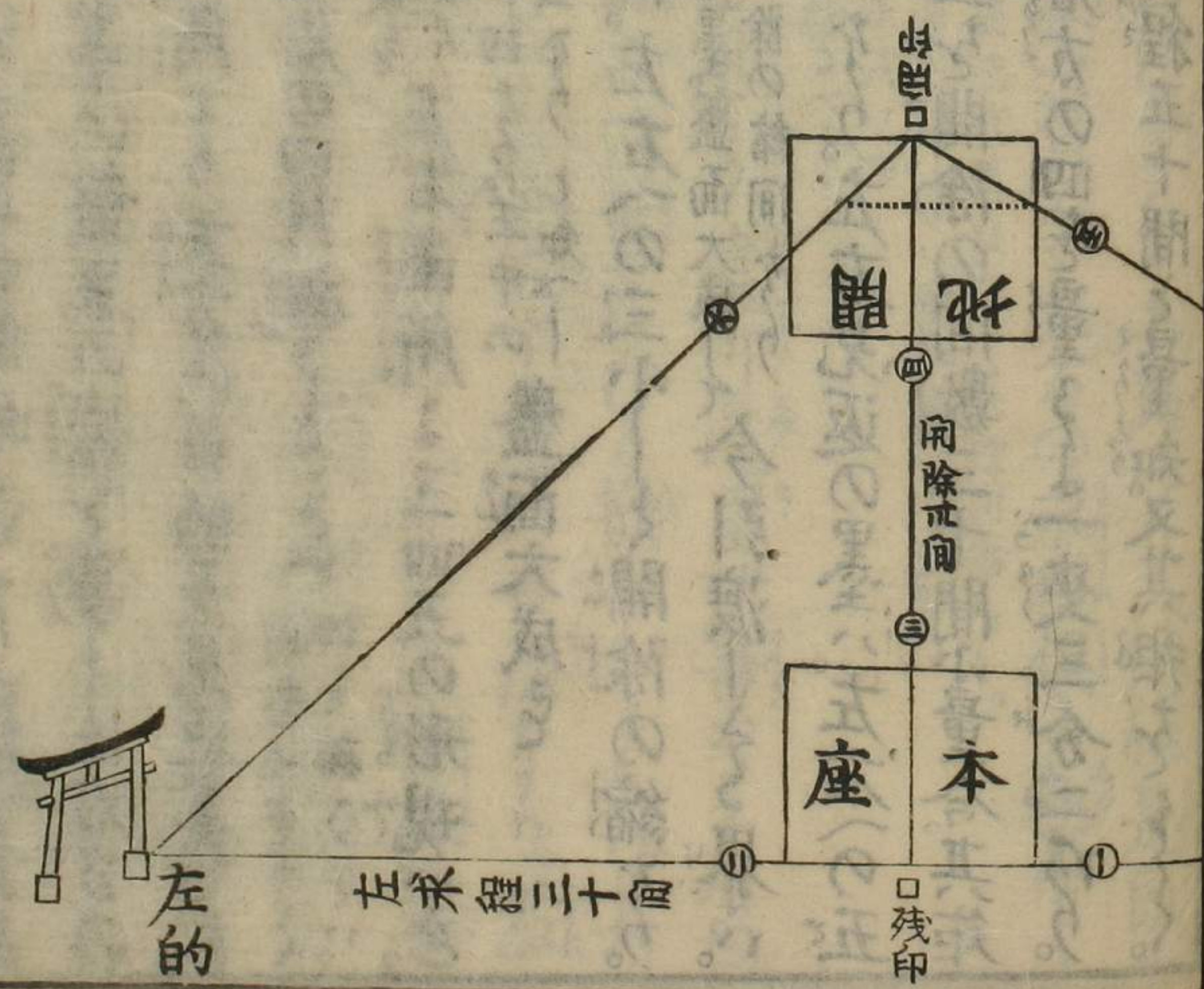
開印ハ立さる然して盤の

東西の正中ノ正横ノ墨ハ

引渡し。此墨ま定規を當て。

量地指南卷二

三



大成之圖

此区ハ角除三十間ノ縮ナリ
 此ハ右方ノ求程五十間ノ
 縮ナリ此ハ左方ノ求程三
 十間ノ縮ナリ又ノロヲ以テ
 ○ヲ量ルニ一丈三分ニアリ
 即右方ノ求程五十間ト
 知ルヘシ又ノロヲ以テ×ヲ
 量ルニ一丈アリ即左方ノ
 求程三十間ト知ルヘシ

右米經五十間



開印伏見通。本座は残印伏立置④開地はいつり。殘印を再見して盤伏正居⑤正中の墨の盤東の端を要して右方の

目的伏見返墨伏引⑥同所より左方の目的を見返墨と引。

界然して割盤法伏りく。左右の四伏極るとい。割盤法をかく四を極るとい。

左右の見返の墨と図のこく横界を引。切ちめくくく。左右兩所は三四五の形現い。

左右より。今引渡して。界ハ四なり。正中の墨ハ三なり。左右見返の墨ハ五なり。と知べし。盤面大成と。

今現く所の正中の墨ハ。左右の三小く開除の縮なり。

盤の正中は家初引く。堅墨盤面大成して。今引渡して。界ハ

のし。左右の三となる。今引除の縮間なり。左右への四小く求程の縮なり。左右見返の墨ハ。左右への五

小く假借の縮なり。其三を開除の間數三十間小量令。其矩

開除の間數三十間の矩をを。右方の四を量ると一変三分二なり。

一変ハ三十間なり。即右方の遠程五十間と量知。又其矩をを。

右方の四伏量り。左方の四伏量り。一変ハ三。是即

開除三十間の矩なり。左方の四伏量り。一変ハ三。是即

左方の遠程三十間なり。爰はおわく左右の求程俱は知る

を。割盤法をわく。術ハ充盤法用ひて。其理同事なり。

爰ハ書中混と。故は其事を省く。ハ。或向とあると。

一知雙開方。爰ハ兩斜用の法伏り。兩正用も准して知るべし。

此術ハ本座の狭小なる取より遠所遠里伏量り。用也。

を。一里を。遠程伏量らむと欲と。其

開除の地徑三町を求むべし。是三分一の古法なり。然

ど見渡三町の間は全く眼目のは。り。場取ハ平

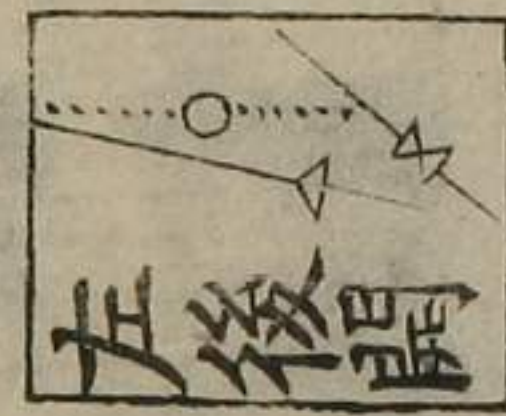
陸易地と。充す。故は狭小の地形は

して莫太の遠程伏量り。是を佳と。此術ハ左右は

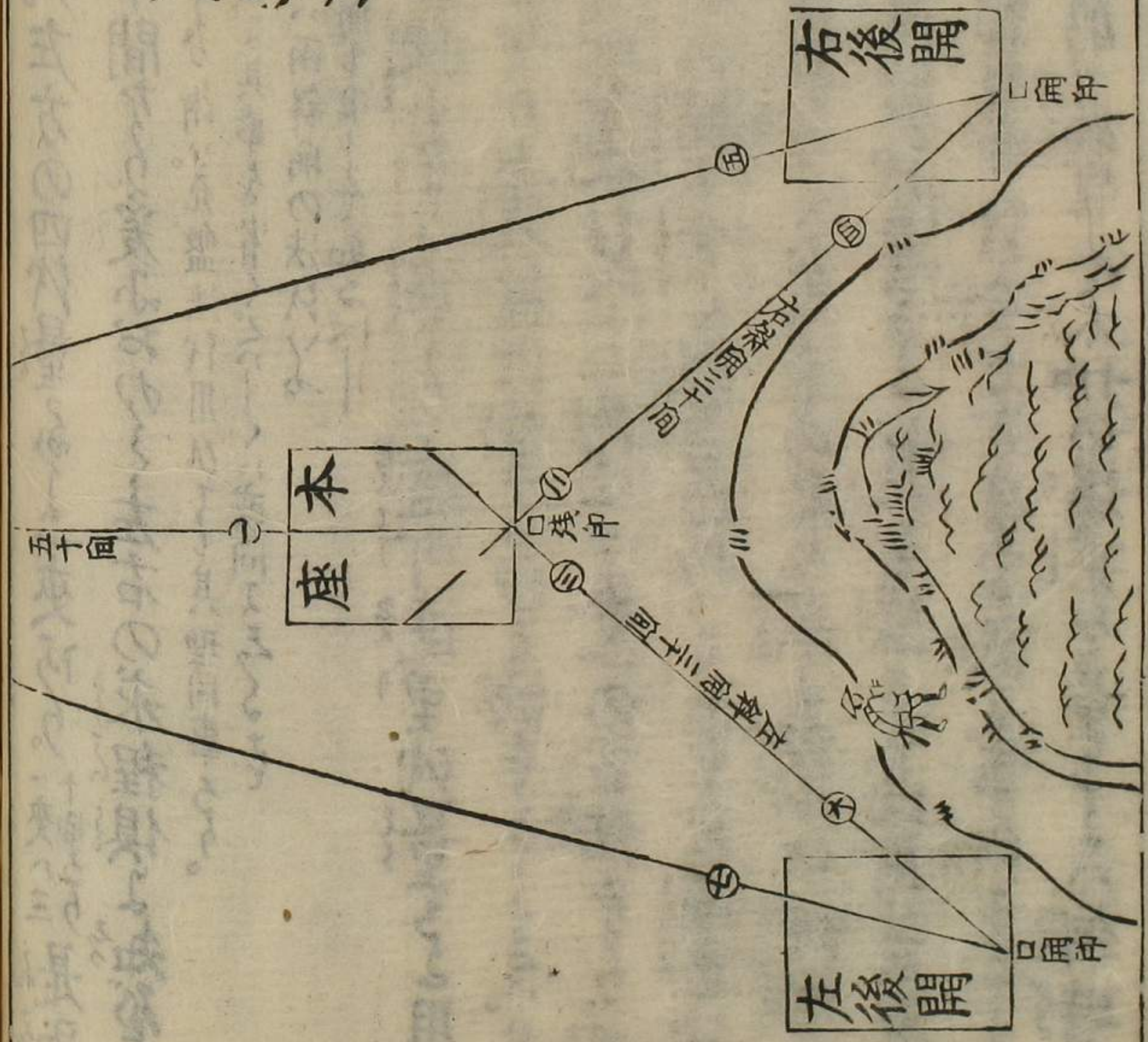
開除と求む。其符節伏合。量る故。事術と。も

差異。事。惣と。太切の場取を量ると。何時と

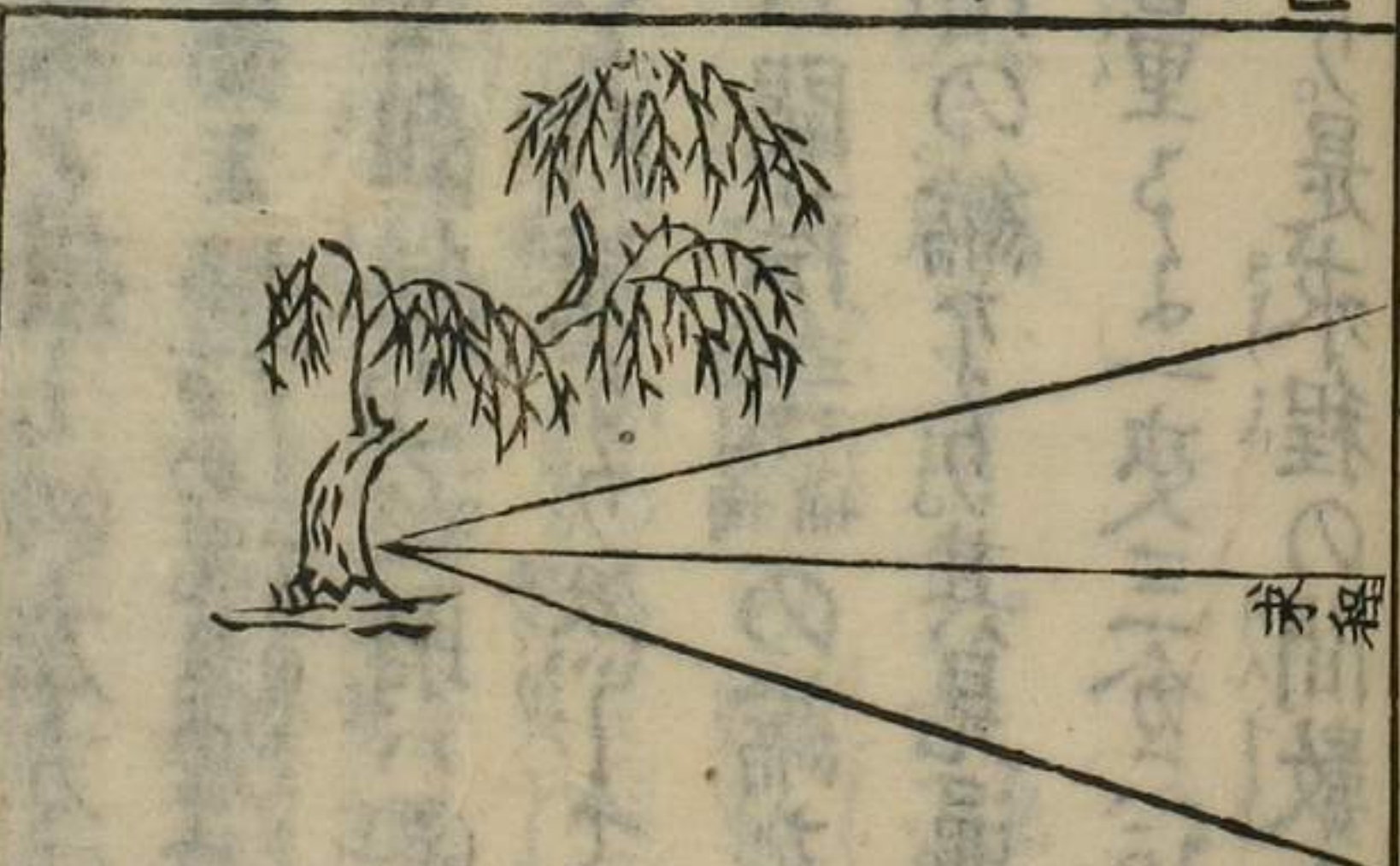
大成之圖



此又八間除三十間ノ縮ナリ
此〇ハ求程五十間ノ縮ナリ
此△ハ假借ノ縮ナリ此又ノ
斜ロヲモツテ此〇ヲ量ルニ
一夾三分ニアリ一夾三分ニ
ハ即五十間ナリ是永程ノ
間數ナリト知ルヘシ



此法然るを。又いひま
の術やくと。家初量置
るる法も。眼力のゆや
まり有哉と疑ハ。事
事等ゆゑ。此法とめて
改正まべ。其中否立
どころ小頭系旁とて
良法と謂べ。



術云 下は因まされ。まの盤の正中は。盤南より盤北へ墨引引く。一
取ひやく云。まの盤の正中は。正立より引渡り。墨引引く。一
作法のどとく本座は盤の方正は居。其盤中の墨は定規
當く正は目的は見込。二斜は右後へ間數。右斜間。と定開印と立
さやく。盤中の墨の盤北の端を要小して。盤東より是と見通

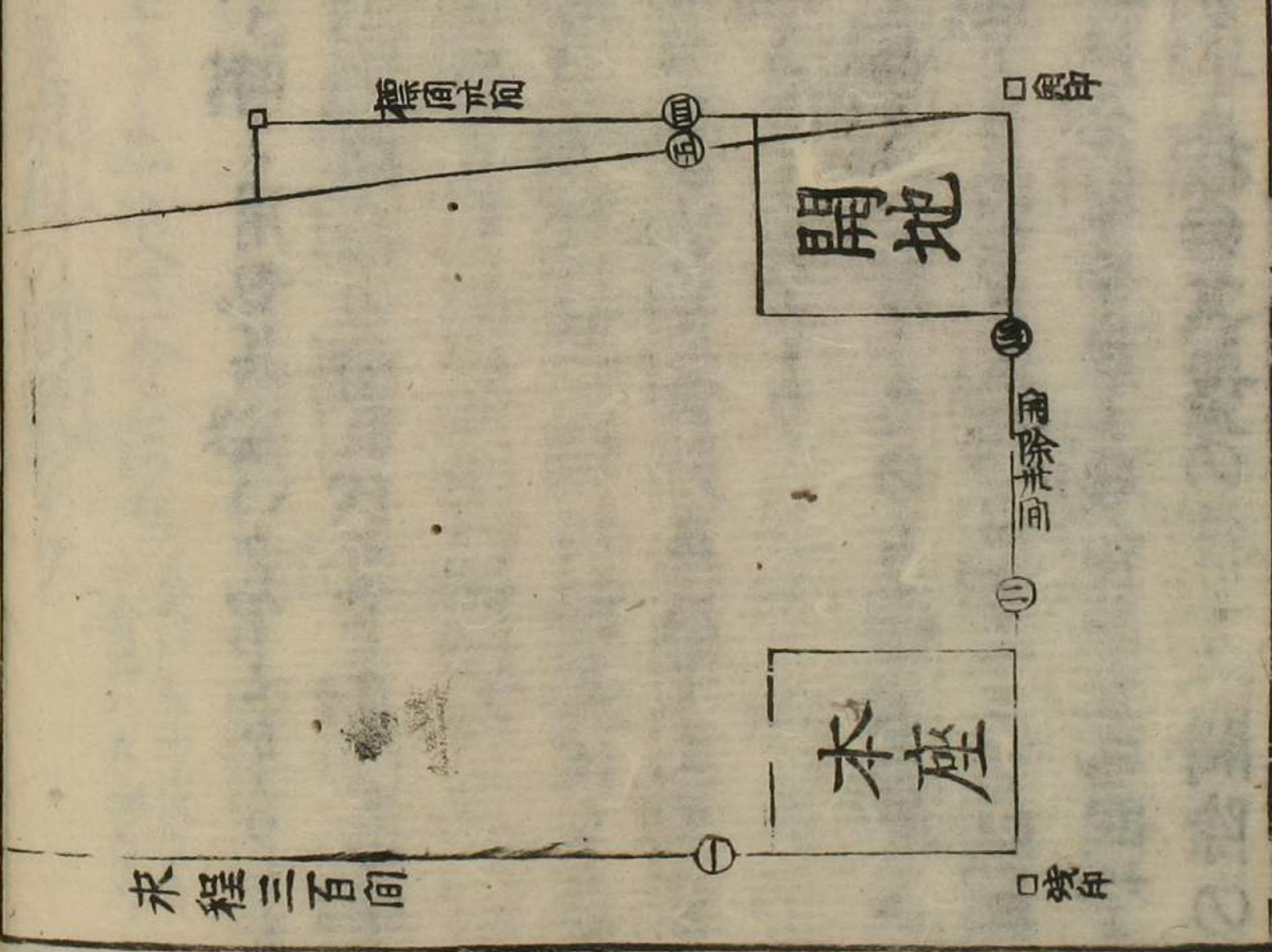
③斜は左後へ右後と同間、開印は立を盤中の墨の盤北の端を要し、盤西より是は見通④初右方の開地は遷り、残印は再見して盤は極⑤其再見の墨は端と要し、定規とつて、本目的は見返墨は引然して今見返する盤西の墨は、毫釐も違ひぬやうに盤東は摸し⑥左方の開地は移り、残印は再見して盤は極⑦其墨は右方の見返の墨は、本目的は見返初左右の墨、齧齧の時に、界、割盤法をかりて見返の墨の盤南の正取立は界を引渡なり。然して盤面大成と今現る所の見通の墨は開除（兩斜向三十間）の縮なり。豎の界は求程の縮なり。見返の墨は假借の縮なり。其見通の墨と開除の間は量合其矩とわり、界と量るは一変三分二なり。一変ハ三十間なり三分二ハ九間なり一変三分二ハ即五十間なり。是求程の間数なり。

量盤術遠近法下

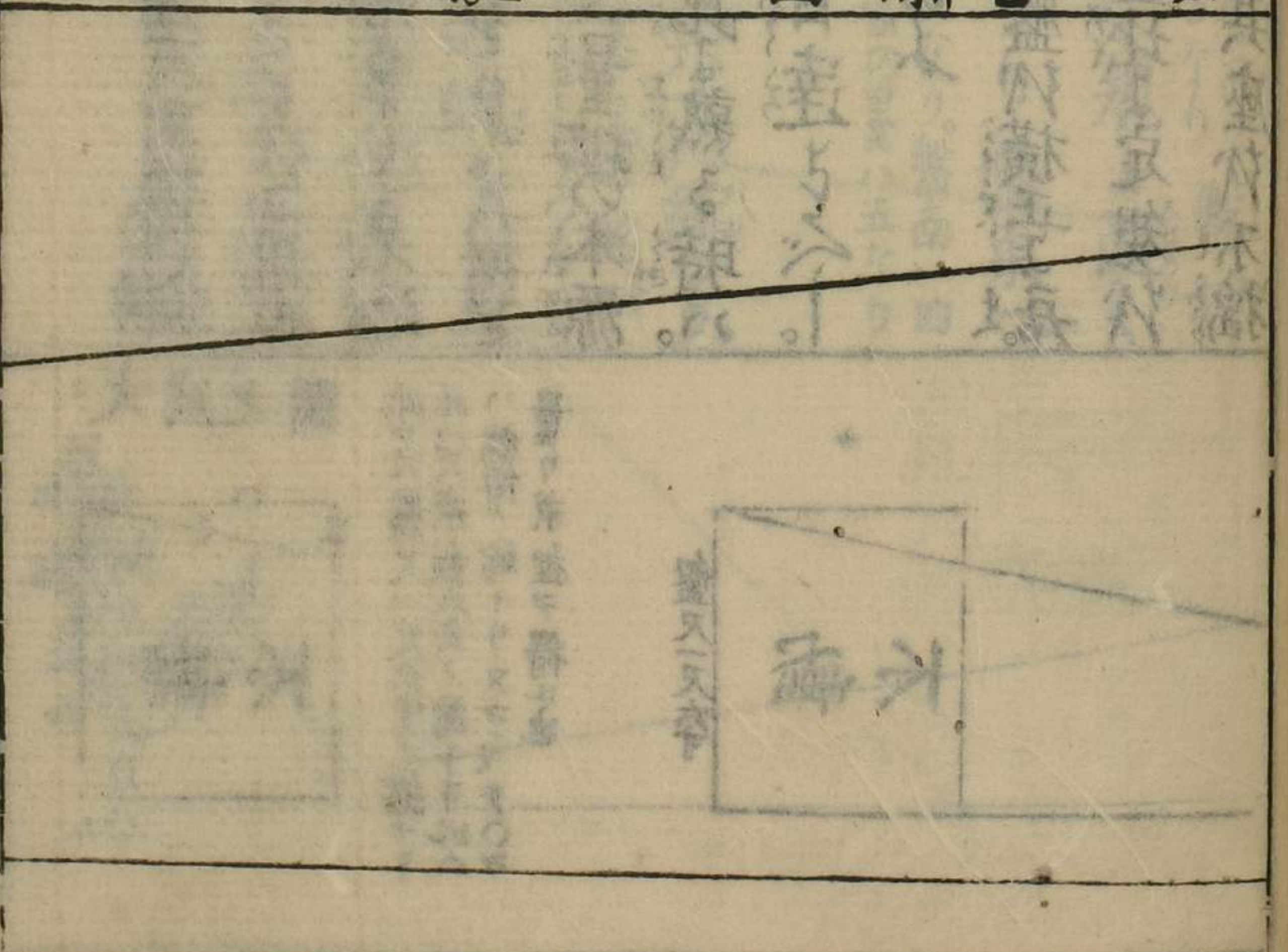
神速大盤方

此術ハ目的遠く開地少く時、用也。其法は、五間七間より十間十五間乃至二十間、三十間まで、其地より用く、開除の間数決定、見通の印と立其彼方へも開除の同間、間数決定、正は合せ、標は立、量るなり。畢竟方面十間、間の大量盤は用ひ、大元方（大元方の作法ハ未だ後記）の術を勤る、術云、下は因、作法のおとく品々始計、そのら、本座小盤は方正、居盤東より正は目的は見込、右方へ正は間數を定、三十間開地は求、これ見通本座は残印を立、開地は移り、残印は再見して盤は方正、極、其盤の彼方へ開除の

同間ノ間數ヲ定 開印と正
 成なりて標しるしヲ立た 此印用印と
 正を外さぬ
 やすし。随分念入てまべし。正當
 いさうり違ふとさハ大差と成るり。
 標の制作もまご尋常と異るり。櫃と
 もく作る。方面二寸堅長二尺二二寸
 ぶらり。但地よ入をい外かり。盤の
 物尺をわく此長尺の節と下よ
 石突有り。頂より五分去く定規を
 徹と小竅しほあり。稱作用宜よま任まべし
 ○盤乾くり小斜しや見返時とき。
 彼標の徹と置まく定規の
 先さ差出さて盤面の定規
 と目的と彼標の徹と定規
 の先さと三物の一正は見渡みかり。
 然しからんとさハ三四五の形かたち



現いま盤面ばんめん大成たいせい 此作法このさくは
 おく。方三十間の大盤このおほいばんあり。
 大元方と勤るこのま持もちかり
 今現いまる所このところの標しるしより差出さと
 定規ていぎハ三さんかり。開地ひらくちより標しるし
 ままの地徑ちけいハ四よかり。盤面
 の定規ていぎより標しるしの定規ていぎの先さ
 ままぐい五ごかり。其三さんハ開除
 の間數まはたかハ間ま量合りょうが 三さんの定規ていぎと
 三十間の矩かね
 と各おのちり其矩このかねハは四よハ
 十じゅうハ小十交せうじゅうまあり。一交いちま三十間
 十交じゅうまハ即すなはち三百間さんぱくまあり。これ
 求程きうじょうの間數まはたかかり



規矩大元方

此術四方障礙多し。左右前後四斜の閑除とて、叶ひがささく此小用也。其法本座は不去して居る。見込見通の事、勤め盤尺をりて其術を竭せり。抑此法此理、量地の本源、量盤の玄微なり。故に此は熟する時、其他の不學といへども、自達とてべし。此謂は、號て大元方といふ。

術云、下は区す。まの本座は盤は横正、居盤南を右とし、盤北を左とし。盤東と彼とし、盤西を此とし。盤北は定規は

載て正は目的は見込。次は其座は不揺

を要し、斜は目的は見返。定規は隨く

墨は引然する時、盤南より盤東へかきとく。三四五の形、盤東ハ三なり。盤南ハ四なり。斜當の墨ハ五なり。ゆゑいせ。盤面大成とて

今現る所の三ハ閑除一尺六寸は縮り。

盤の長尺たより一尺六寸なり。其三の縮は一尺六寸の口と名する事。尋常同一なり。四ハ求程の縮なり。五六假借の縮なり。其

三ハ閑除の盤尺一尺六寸は量合其矩

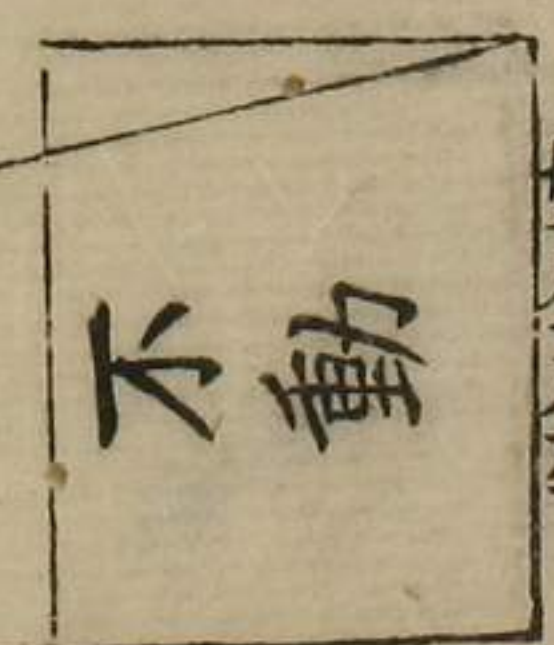
盤尺一尺六寸の矩をゆりて、四と量るは五十夾有。一夾ハ一尺六寸宛なり。五十夾ハ即八丈なり。是求程の間敷と知るべし。

大成之圖



此ハ盤尺一尺六寸ノ縮ナリ。此ハ求程八丈ノ縮ナリ。此ハ假借ノ縮ナリ。又テ量リ求程ヲ得ル也。

盤尺一尺六寸



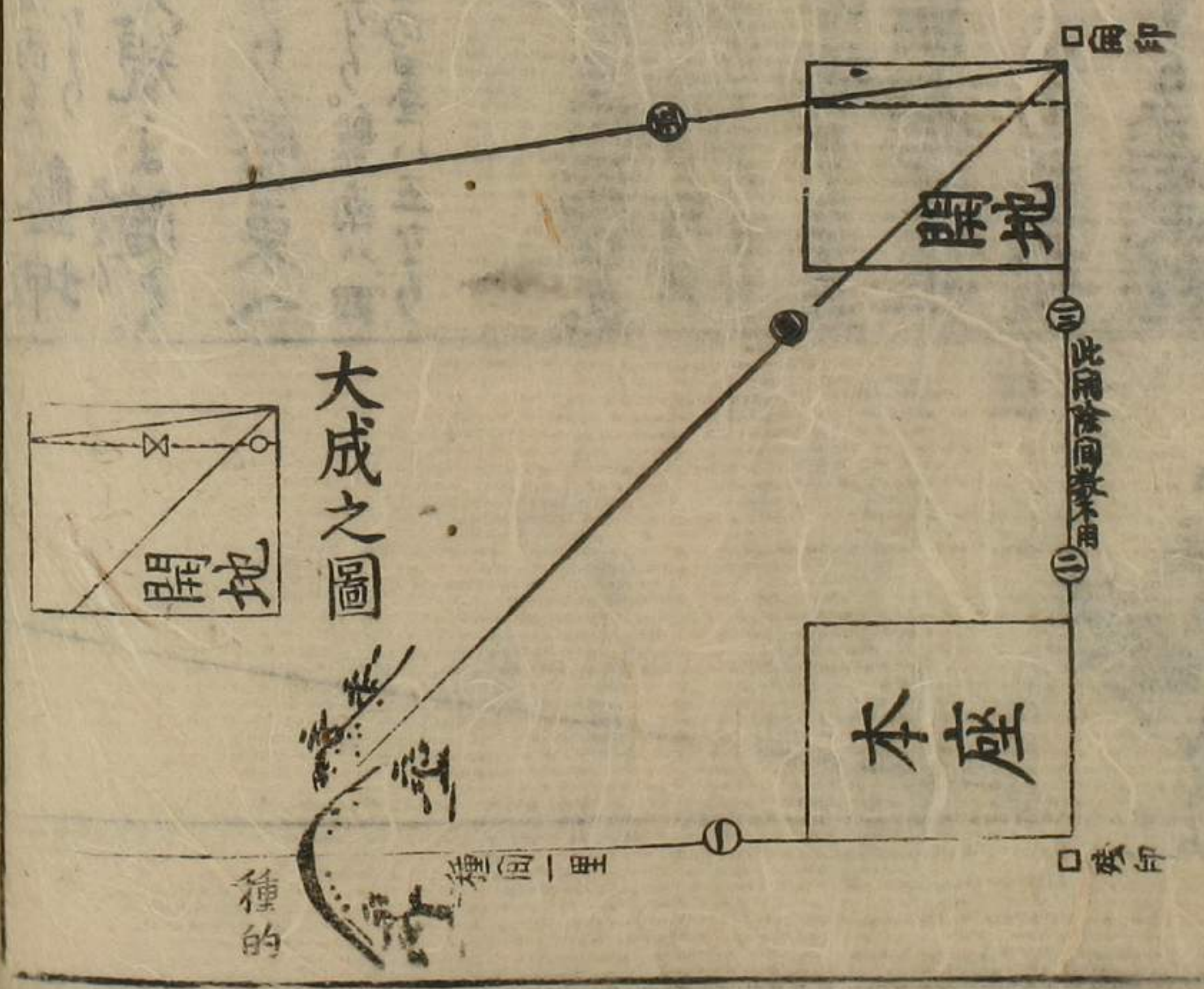
幽遠大量方

此術ハ郡郷と累々州國と隔く十里廿里乃至卅里五十里の遠程は量る小用其法種の小目的の法設き此間數と求程の矩として量知るなり。

遠程は量る小ハ其兩除一里より二里の事古法は叶えりと二ども一里の間數全眼力の巧むりなり地形ハ大國の中を稀なるべし此故は種の小目的の法よりなり其間數は即兩除となりて求程は量知るなり

是ハ大量方と號く

術云 下は圖をみる 先本座より



此ハ八種同二里ノ縮ロナリ
此ハ八求程五里半ノ縮ナリ
○ヲ以テ×ヲ量ルニ五夾半
アリ五夾半ハ昂五里半ナリ
是求程ノ間數ナリ委クハ
本文ニ記ス勘合スヘシ

求程六里半種回四

空眼依りて山頂より目的の決定
遠里を量るとしては山頂より目的の八山頂依り用ひしより次小
本目的の此方少山林なり
とも堂塔なりとも里町の
知しる種目的の決定 種目的の
不知ハ其期は臨み種の間數と
量るなり今其遠程假一里と定む
次は右いづれへ成とも兩の
目的の見へ安さ方へ開地と
定め 下は圖をみる取ハ如此は始計
右方へ開くなり
して後 ①本座は盤状方正
は居盤東より種目的の
かき本目的と正見込其

盤ハ不揺やうは居置②右方へ正に開除ハ求む開印と立す也。
此用地の間数ハ求程の種ハ不用なり。故に間数つらみとてしるべし。盤北はくわーうん。但種目的まじくの遠程三十分一をくわと節ととるべし。 盤北は定規ハ載る是ハ見通本座ハ残印ハ立立③開地は後リ残印を再見して盤ハ方正居居④其盤乾と要少して斜ハ種目的と見返墨ハ引引⑤同所を要少して斜ハ本目的を見返墨ハ引引界を引渡と然らる時ハ盤面大成と

今現在所の盤北より種目的見返の墨まじくの界ハ種の間数
本座より種目的つらみ一里の口なり。種目的見返の墨より本目的見返まじくの遠程より一里の口なり。種目的見返の墨より本目的見返の墨ハ盤南の留まじくの界ハ求程の間数の縮なり。其種界の縮口ハ種の里町一里ハ量合。此縮ハ一変ハ変ハ一里の矩とつらみ其矩をりて遠程の界を量る小五変半ハり。一変ハ一里ハ五変半ハ即五里半なり。

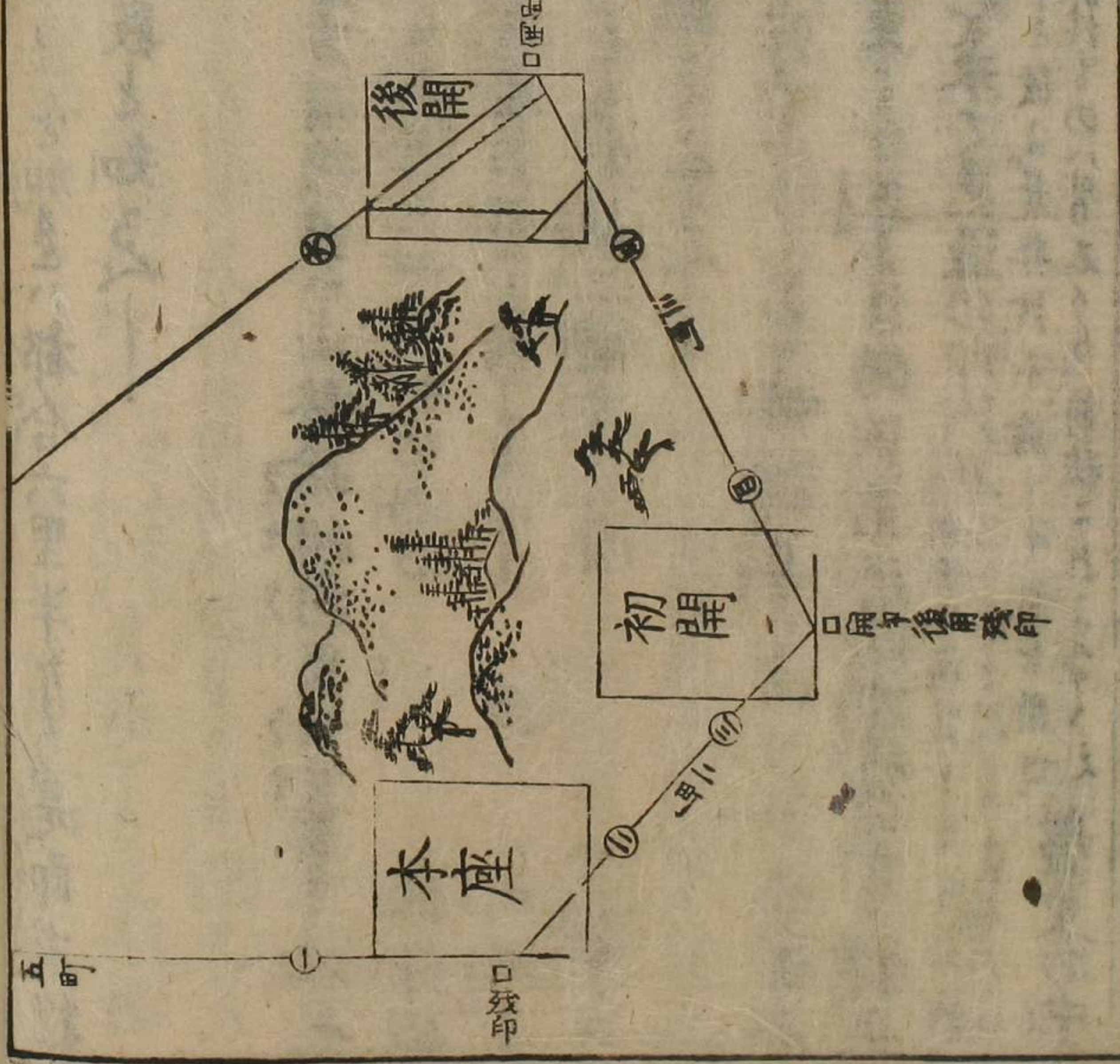
其上種の間数一里を加さハ都合六里半なり。是即求程
本座より本目的まじくの遠程なりの間数と知るべし

三 地重開方

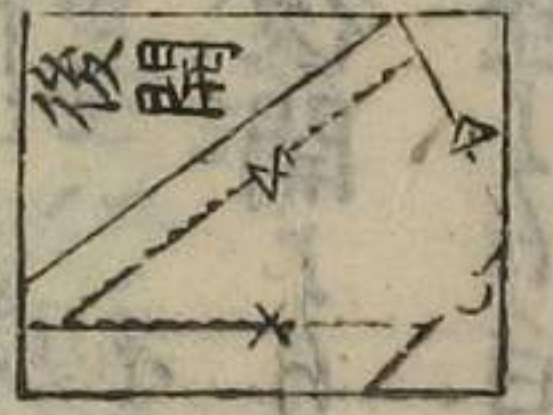
此術ハ本座の左右前後或ハ山林嶮岨村里竹葉葦等の地を一町二町の間より乃至三町四町の内まで一町開除の場を取り遠程ハ量る時ハ用也其法開地ハ兩所ハ累々求て量るなり。尤彼二開方ハ其術異なり。委考術中ハ記を勤くとるべし

術云 下ハ図と作法のおとく品々始計畢てのち①本座ハ盤ハ方正居居盤東より正に目的見込②右後の方へ斜ハ小間町を定め斜用開地を求て見通の印ハ立立
前後左右より取らぬ故に是非ハ不論し斜を用也。盤東の中より斜用ハゆれものハ皆あり。前後これよりえ

程より少く下の方
 少く斜は初開の
 地は見通定規小
 ちとぐひて墨は引
 本座は残印は立
 三開地は移る残印
 を再見して盤は
 方正は居四右前へ
 斜は間町と定め
 後開の地は求め
 見通の印を立ると
 初開の墨は盤北の



大成之圖



此〇ハ初開二町ノ縮口ナリ
 此△ハ後開三町ノ縮口ナリ
 此×ハ見返假借ノ縮口ナリ
 此×ハ求程五町ノ縮口ナリ
 〇△×等ヲ量リタル矩ヲ以
 テ×ヲ量ルニ五丈アリ五丈
 ハ即五町也是求程ノ同数也
 其作法ノ審ナルト本文ニ記
 ルス考ヘン

山而を要小く彼
 見通の印 後開の地の
 用印をよ
 と見通其定規よ
 随くひて墨を引五
 後開の地よくら
 初開の印と残印小
 初開の見通の印
 爰して残印とを
 是は再見して盤
 を方正極六今
 再見して後開の
 墨の盤西の山而を
 要小して本目的を



求程

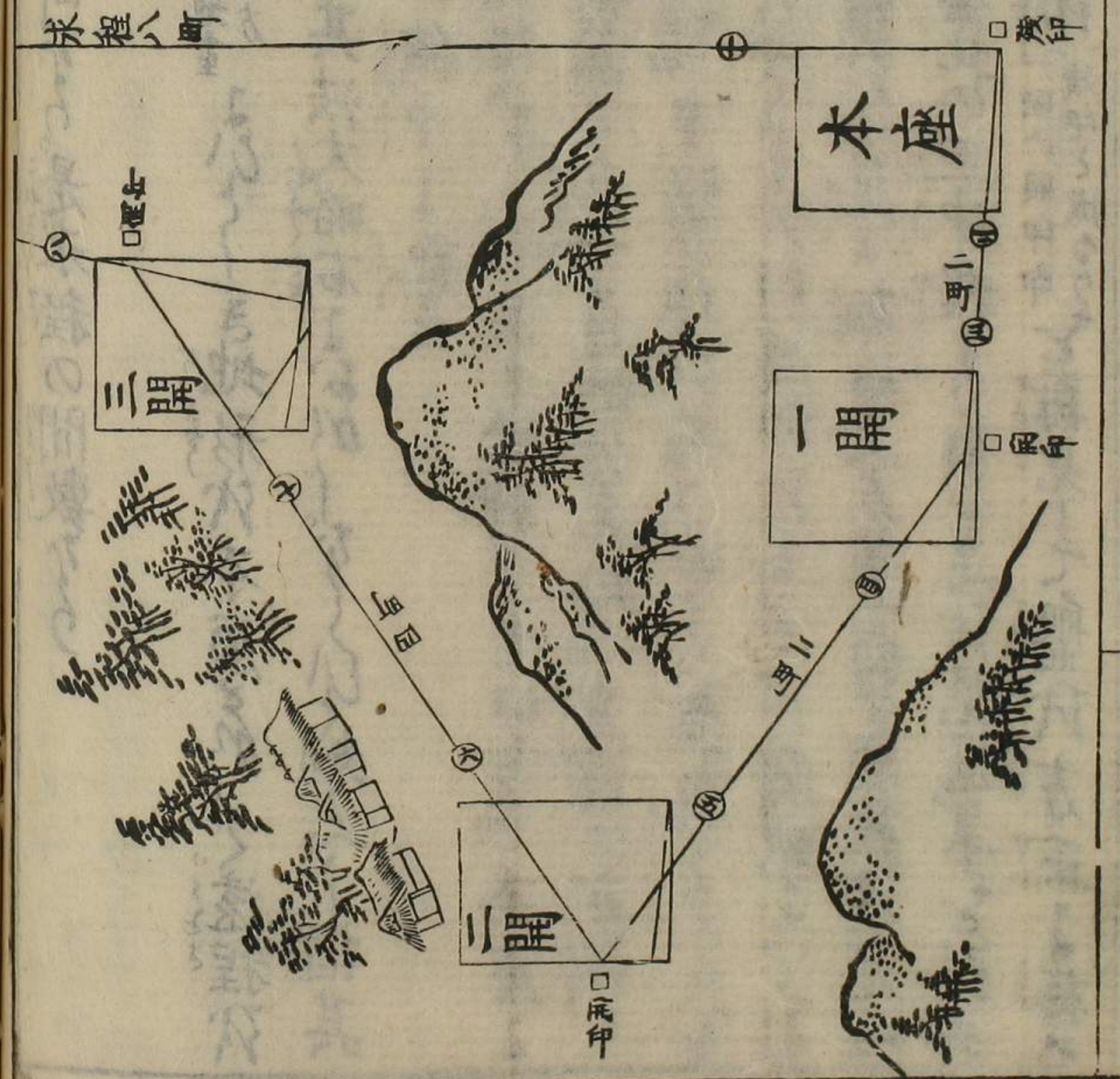
見返墨引界 扱盤法はよく見返の墨乃盤用の留り
 初開の見通の墨より南北へ正取界引渡 此界時求程の縮となる
 其界と墨との會より盤北の要より初開の墨と其間數 初開の同數也
 二町量合 會より要より二夾より合 其矩より後開の墨は
 其間數 後開の同數也 三町量取 量取より成とも其矩をりて其間數
 其より違つる混むる 其墨のより余る分をば用ひ 又斜小
 界と引 此界ハ見返の墨は随ひ曲節 然して盤面大成と
 今現る所の盤良の方の墨ハ本座より初開より見通二町
 の縮なり。盤乾の方の墨ハ初開より後開より見通三町の縮
 なり。盤坤の方の界ハ後開より目的より見返假借の縮あり。
 盤東の方の界ハ本座より目的より見込求程の縮なり。扱
 初の矩 初開後開をより 五夾 一夾一町 濁発の口より

あり。五夾ハ即五町なり。是求程の間數なり
 三地重開方
 此術も前術 二地重 用方 一ひと一地形ハ本座より遠程ハ
 量る小用也。其法大略右におのづかひに知るべし。猶其
 審なる事ハ術中ニ記と

術云 下ニ図と云 作法のことく品々始計しそのら 一 本座
 盤ハ方正ニ居。盤西より正ニ目的ハ見込 二 左前の方ハ少
 斜ニ間數ハ定 左斜用 見通の印ハ立さる。盤乾より一
 見通。定規より随ひく墨ハ引。殘印ハ立 三 一の開地より
 殘印ハ再見して盤ハ方正ニ極 四 又左前へ斜ニ間數ハ定ぬ。
 左斜用 三町 開印ハ立。盤北の正中程より斜ニ是ハ見通。墨を引 五
 二の開地より迂り殘印 一開の用印即 殘印と成る。と再見して盤ハ方正ニ極ぬ。

⑥ 右前へ斜に
間敷決定。右斜前
開印は立一の
開地の残印を
再見し、墨
の盤東の端を
要し、開印
を見通、墨を引
て盤は方極

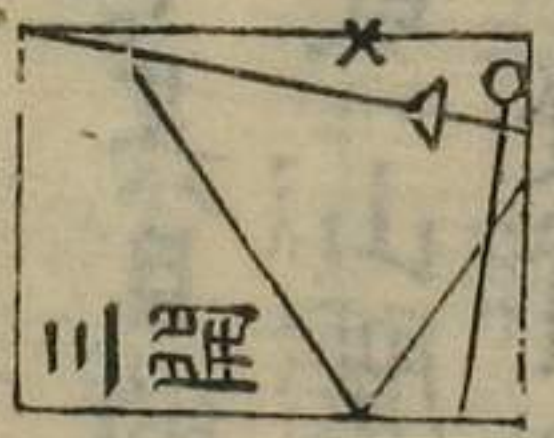
⑦ 三の開地
移り、残印
成り、を再見し
て盤は方極



⑧ 今二の開地を
再見し、盤
西の墨の端を
會し、盤北
より斜に目的
を見通、定規
を引、墨を引
時、盤西より
盤北へかき、
三四五の形現
る。然し、
盤面大成と



大成之圖



此〇ハ初前二町ノ縮町也
此Xハ求程八町ノ縮町也
此△ハ假借ノ縮町也
〇ヲ以テXヲ量リ其求程
ヲ得ルハ他術ニ同シ

右此一術本法に據りて、遠く學者惑ひ
生し、畧法に用ひて、速く、初心會し、安
爰に、今其本法に措く、其畧法に因を
覽者、此音に察し、妄に、拘泥
や、と彼も、此を、俱に、用べし

今現る所の二六初開の縮なり。四ハ求程の縮なり。五ハ假借の縮なり。其二三を。初開の間數二町ハ量合此三を一丈ハ変ニて二町の矩と名ナリ。其矩少ク四を量るハ四交一丈ニ町ニリ。四交ハ即ハ八町ナリ。是求程の間數と知るべし。此法のごとク織密幽妙ナリ。儉勿ニ加ヘテ。今其大畧ハ爰ニ述ク巨細ハ殘ニ是併參攷工夫の爲ナリ。此故ハ日ハ逐ハ月と添リク切瑳琢磨シ。黎明の白晝ヨリテ。其理トシテ。奥ゆきむつゝ。事とのこたわらして捨置ルハ。悟ル期終ニ有ベク。

累隔指正方

此術ハ山林村里等ハ累隔テ。其目的不見と云々。正當ニ遠程ハ量ルニ用也。或ハ山腹と穿テ澗水ハ此方へ通シ。或ハ森林林ハ超ヘテ發貢の幕場と定等の此方ハ皆此術ハ用也

術云下ニ図ナリ 一まの座少ク法の如ク盤ハ方正ニ居

二の座ハ斜ニ間數ハ定ク開印此印即殘印トナリテ三の座

を立サ也。盤北の中程より彼印ハ斜ニ見通ニ定規ハ隨ク引

墨ハ引本座より目的不見故一の座ハ殘印ハ立ニ二の座ハ

迂リ一の座乃殘印ハ再見シテ盤ハ方正ニ極ニ三の座ハ

斜ニ間數ハ定ク開印此印も亦殘印トナリテ四のを立サ也。

一の座より二の座へ見通の墨盤西乃端を要シテ三の座

の印ハ見通墨引四三の座至リ二の座の殘印を再見

シテ盤ハ方正ニ極ニ四の座ハ斜ニ間數を定ク開印右斜用

墨の盤東の端を要シテ四の座の印ハ見通墨引六

四の座へ移リ三の座の殘印を再見シテ盤を方正ニ極ニ七ハ

此所より目的見ゆる故一を立さる也。二の座より三の座へ見通の

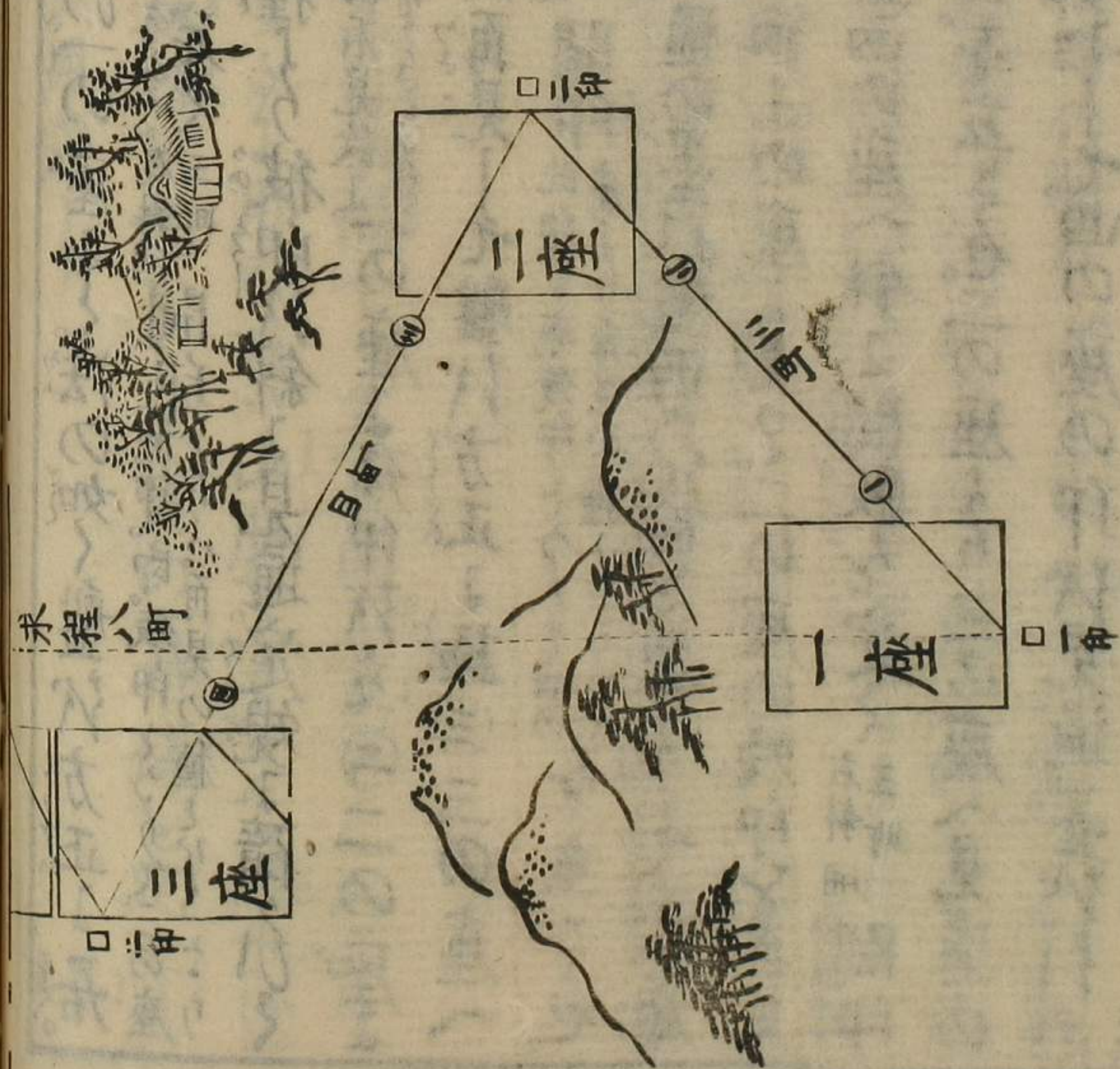
此印ハ殘印小用ひざるナリ

此所より目的見ゆる故一を立さる也。二の座より三の座へ見通の

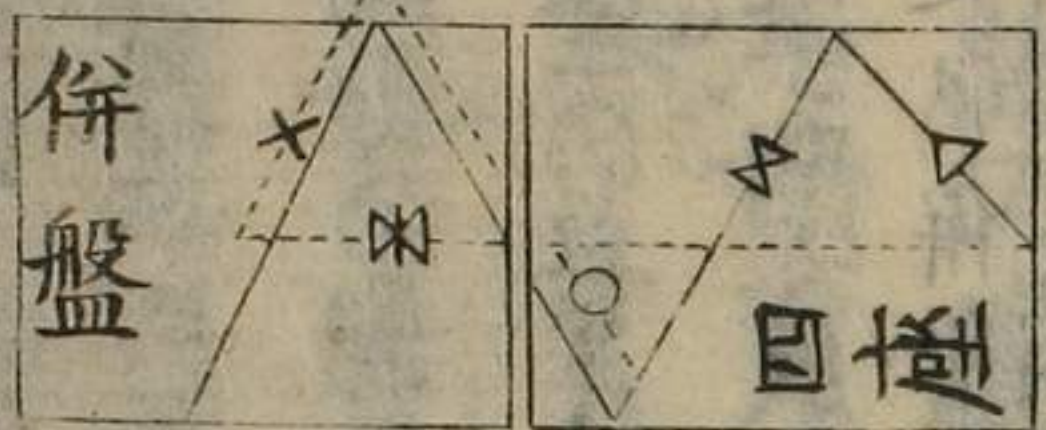
此印ハ殘印小用ひざるナリ

此所より目的見ゆる故一を立さる也。二の座より三の座へ見通の

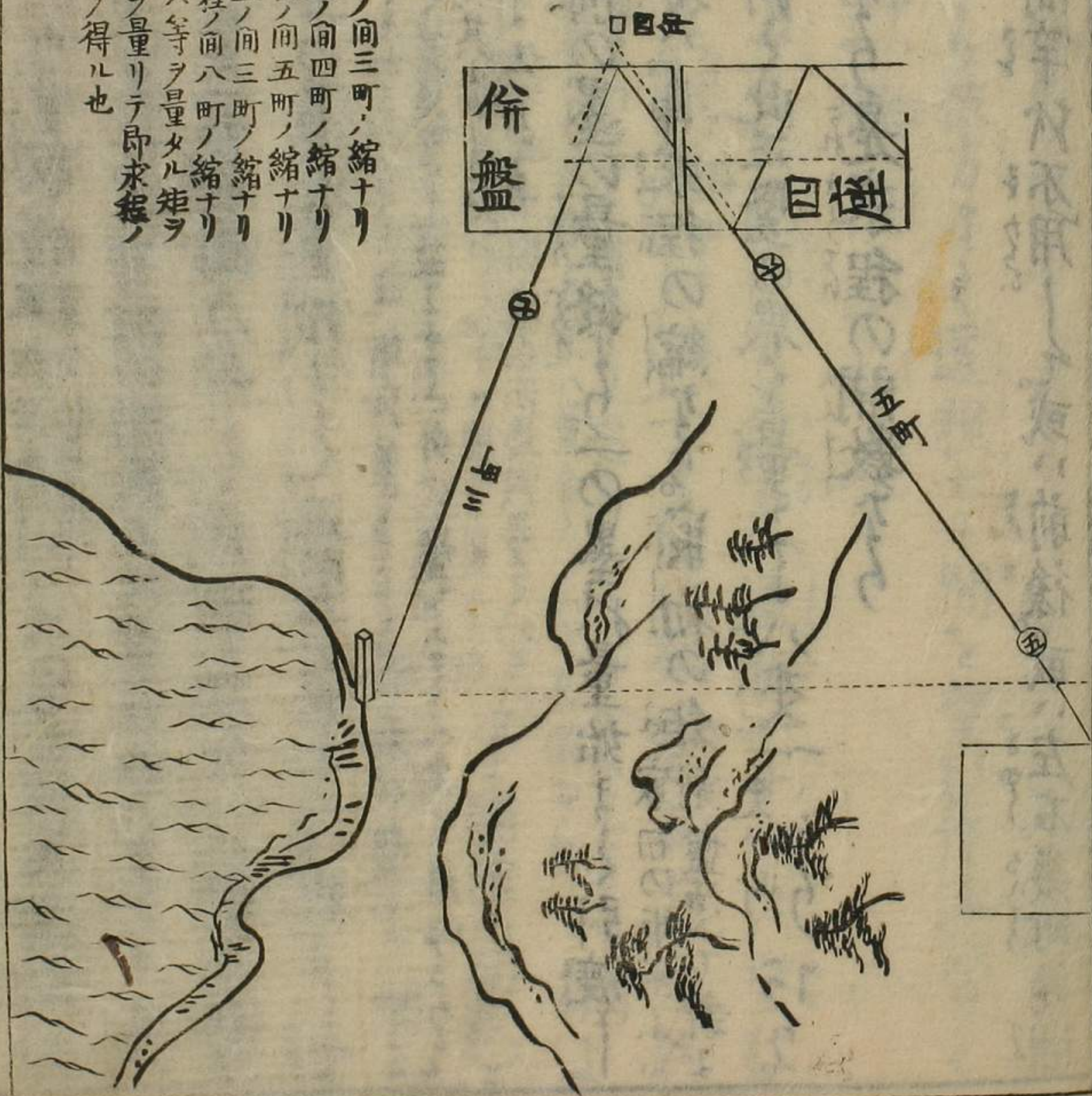
目的へ斜に間敷
 定^{左斜向}三の座より
 四の座へ見通の墨の
 盤東の^{えがき}端を要し
 して。本目的の見返。
 四の座より目的見ゆる
 方より。爰より見返るる
 定規に^{ちきま}随く墨を引。
 界^{まき}剌盤法^{せんぱんぽう}ひめて
 新^{あらた}分間の矩^{かど}設^{たて}
 此^こ矩^{かど}ハ。ソグ^まの縮^{ちぢ}し
 かり。盤面の墨の
 長短は随ひて。ソグ
 やとく。制^さされたり
 其^{その}矩^{かど}も。一^{ひと}の墨^{すずり}ハ



大成之圖



△ハ二ノ向三町ノ縮ナリ
 ×ハ三ノ向四町ノ縮ナリ
 ○ハ三ノ向五町ノ縮ナリ
 ×ハ四ノ向三町ノ縮ナリ
 ×ハ五ノ向八町ノ縮ナリ
 △××等ヲ量タル矩ヲ
 以テ×ヲ量リテ即求^{もと}メ
 同^{おな}敷^しヲ得^えル也



其開除の間數三町量取。量取作法より二の墨は其開除の間數四町量取。三の墨は其開除の間數五町量取。四乃墨を其開除の間數三町量取。各圖乃ぶとく巨細一界は引扱其四乃墨の量終より。一の墨の量始まると。正堅一界を引然りして盤面大成とてとてかくはとて。術は界をとてとて。初の盤ややくは併盤法と名く其委一は作法。或向の編中よとてとて。

今現於所の四の墨の量終より。一の墨は量始まると引渡一とて正堅一界は。即求程の縮なり。家初の矩刺盤法にて新は分間の矩也をとてとて。此正堅の界を量る。八変一変一町一り。八変一即八町なり。是求程の間數なり。

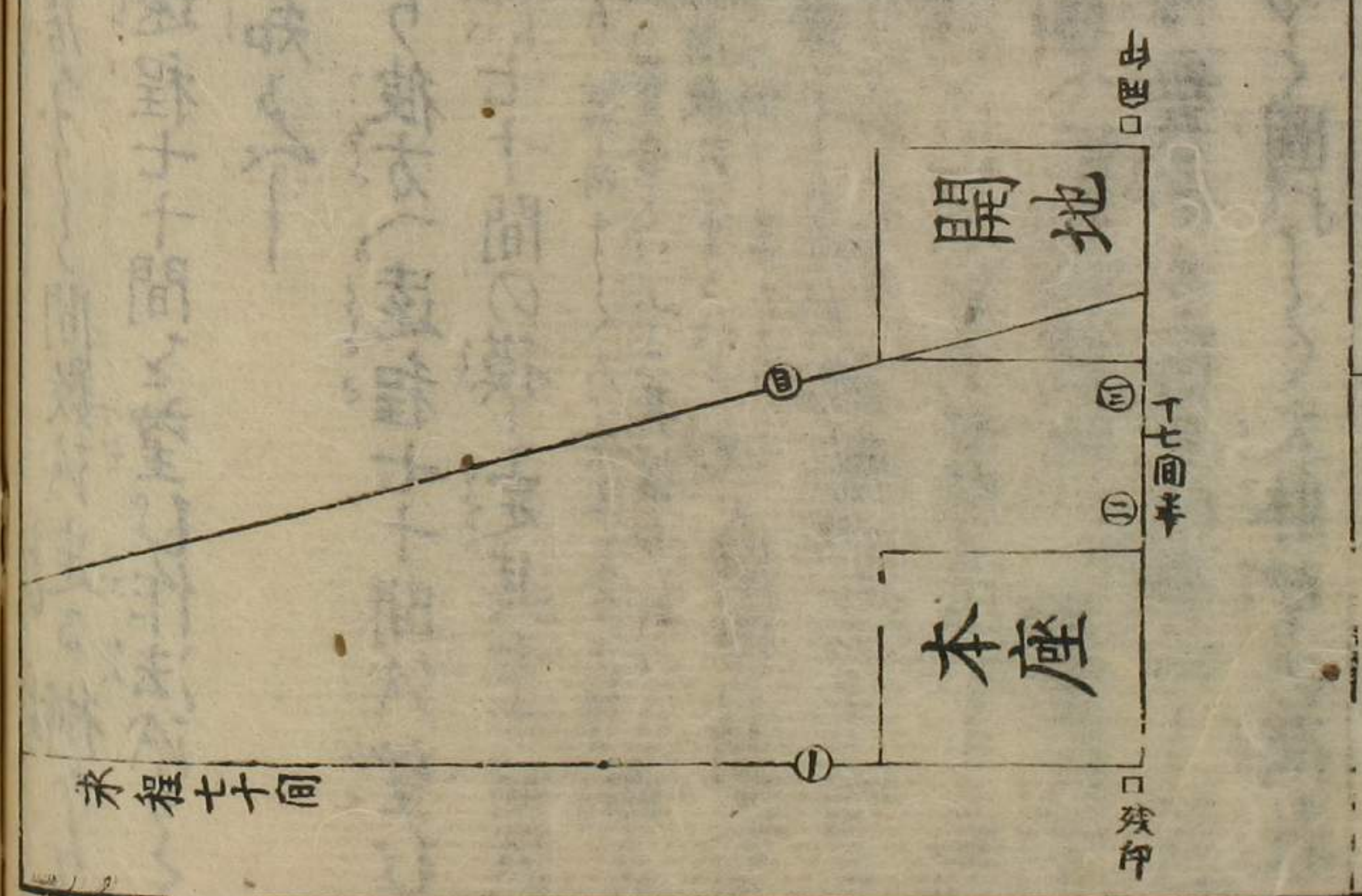
無的定間方

此術ハ間繩間竿ハ不用して。或ハ前後。或ハ左右幾町幾間

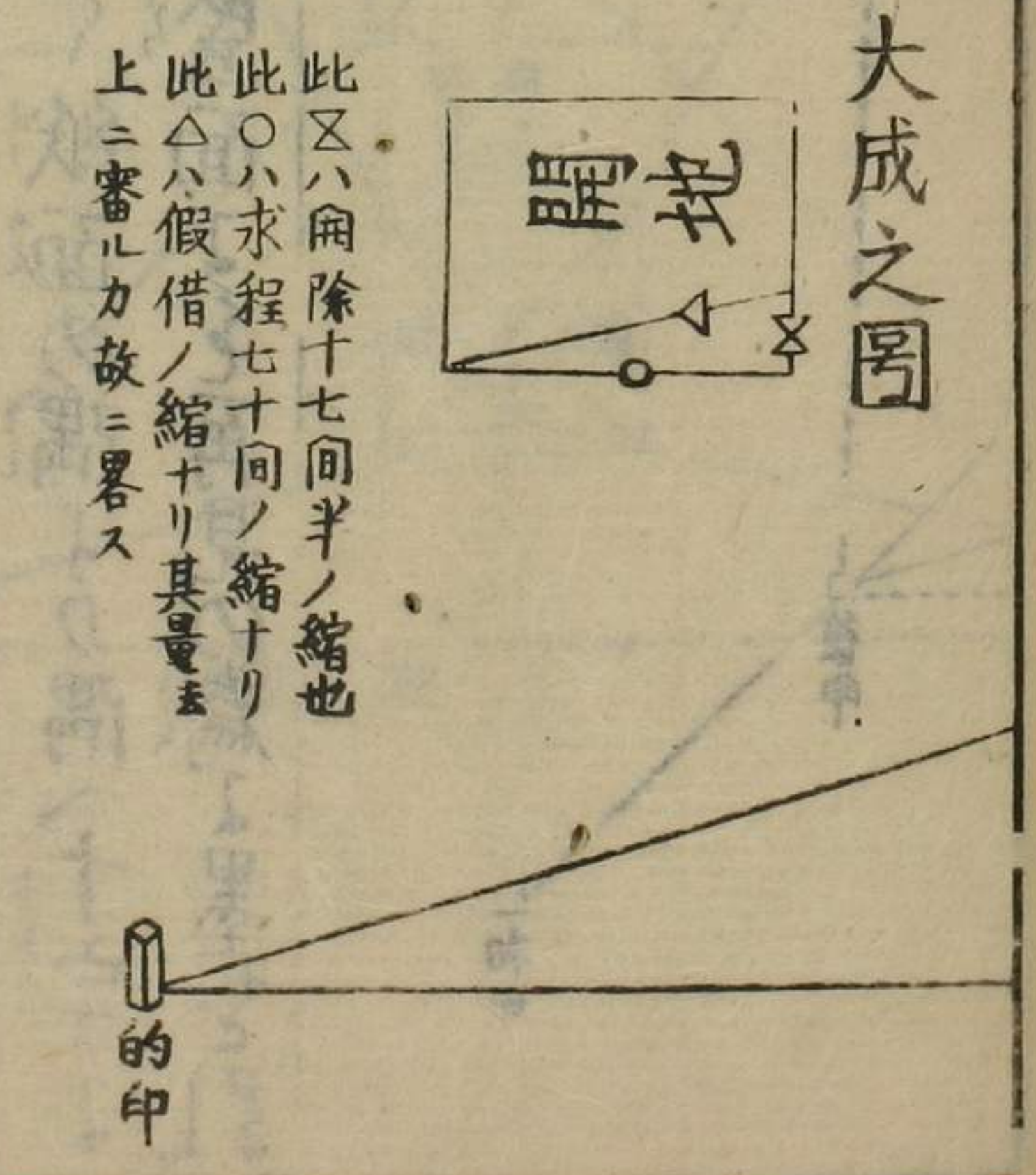
あくと其望む取は隨ひて居る。間數は定る術なり。今爰は此方より彼方まると遠程七十間を望む作法は。記と。術中よ述よ。餘は推して知るべし。

術云。下は圖とて。あくと此方より彼方へ遠程七十間は望む時。一の盤の四を。盤東ははしてよ。七十間の摸と定其七十間は。即盤四割合。盤東の山を。盤北より盤南まると。右余不足を様。新は分間の矩は制一置。此矩開除の間數は量る。次は開除の間數を十七間半と定。此間數十七間半は除る。彼盤四を七十間と割合。七間半をりて。十七間半量り取。其矩の量留より。七十間の矩の留。定規は當。斜一墨は引渡と。然り時。豫盤面は三四五の形。一は。是まうの事ハ本座よ。一扱本座まると圖は。大躰望の間數。出する以前の法より。

七十間の積ひりく。彼方へ正し
 目的の印は假し立しを。作法れ
 如く見込②右方へ正し開乃
 間數十七間半量り。見通の印は
 立しをく是を見通本座は殘印
 を立③開地は移り。殘印を再見
 置く五の墨は定規をあて。
 望の楸は望の楸より目的の為は假し
 立置する。印の楸をいより
 見通なり。目的の楸五の墨
 の定規と一條は不合時に幾度
 少くも望の楸を進退せりて。



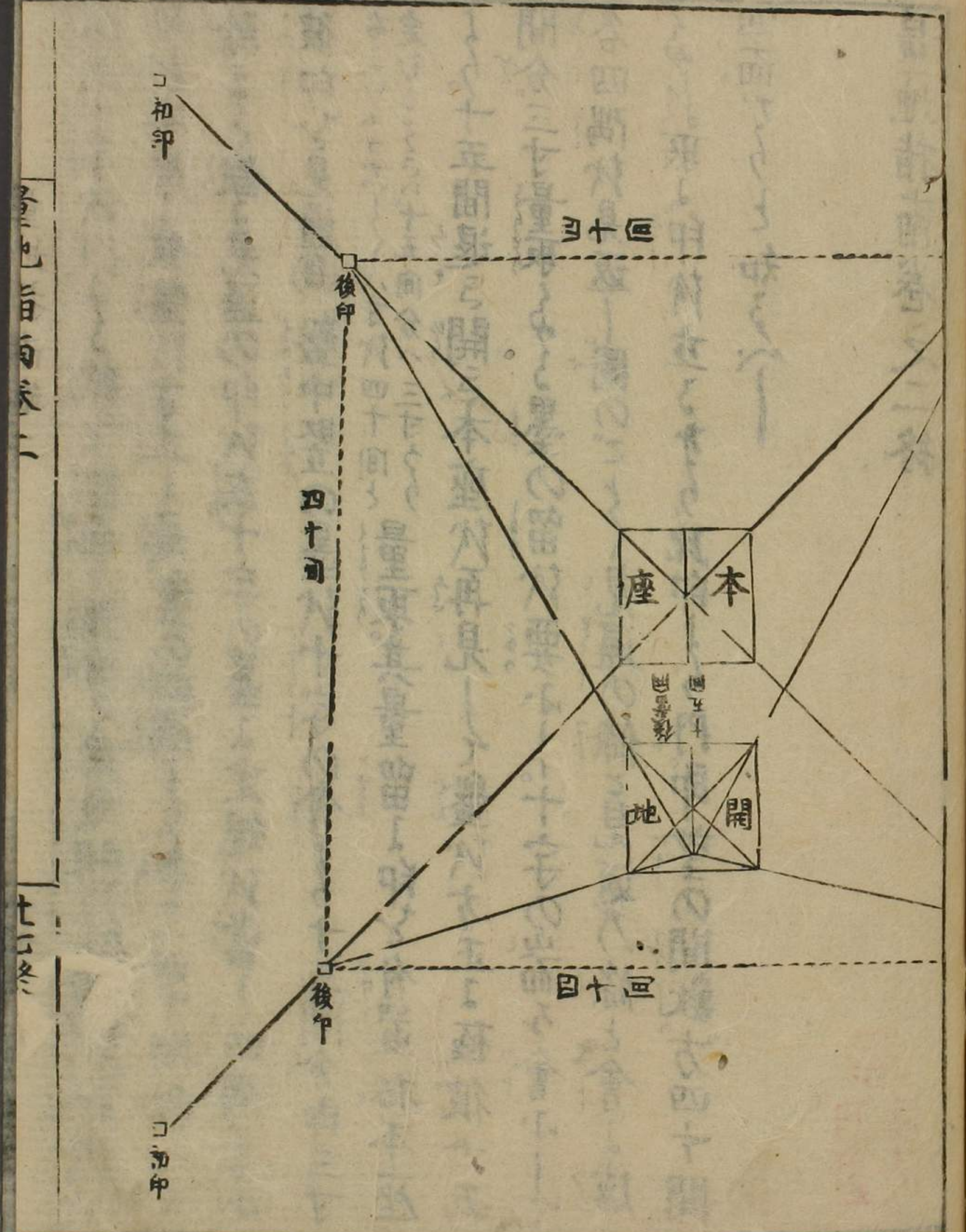
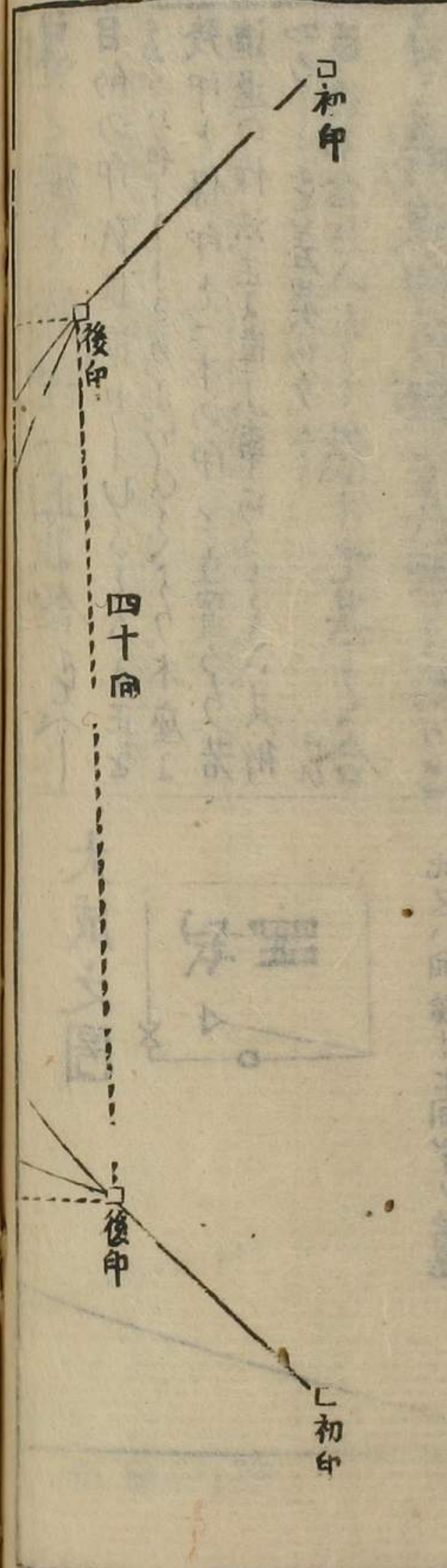
墨と楸と條理一正は合とべ
 目的の印は進退せりむるも正を
 むかりせしむるも正を。本座は
 殘印と係印と二本の印と立置る。若
 進退の作法正し違ふ事あり。其術
 前後尤念に入る。然して其よく合
 する時彼印の楸を其取しと
 立し。是即遠程七十間望乃
 間數の印と成なり。



暗指方面方
 此術も亦右し。間繩間竿を不用して本座より
 四方面い々と成し。望し任をく居か。其間數は定
 ひた術なり。前法無的定
 と此法とい當用無益の術似り
 と。初學の徒をして千變萬化の自由は得せしむ

厚紙為_レ其緩急_ハ不_レ論_ス。又_ハ後_ニ教_ハ覽_者好_レ事_ノ言_ナり_ト。詰_ル事_ナり_ト。

術云_ニ。下_ニ四_ノ間_ヲ。取_リて_ハ本_座正_中。方_面四十_間。其_紙之_廣。狭_ハ八_寸。其_紙之_長。四_十。裁_キ假_シ是_ハ四十_間。四方_ノ摸_ト定_ム。此_矩之_間。數_ヲ量_ス。圖_ノ之_中。紙_面之_隅。より_隅へ_十字_ヲ。墨_ヲ引_キ。此_十字_ノ墨_{。即}方_面四十_間。四_十間_ハ四_隅。を_再見_ノ為_シ墨_ヲ引_キ。



扱此十字引く紙を盤面一張付く用也。是れ以前の事ハ本座より出され以前の法なり
 初扱本座。彼盤は方正。居盤の四隅より各三四十間程つゝ除く。假し見通の印は立十字の墨は定規は當る。四隅とも小彼印を見通後盤中堅の墨は十字の會より十五間分即三寸右よりハ寸ハ四十間と定むるとハ十五間分ハ三寸なり量取其量留し印を付置扱本座より十五間退き開き本座は再見して盤は方正は極彼十五間分三寸量取らる墨の留は要小し十字の山而を會小し各四隅は見返し圖のごとく見通の條と見返乃條と會し成る。取らる印は立るなり。此印より内即望の間數方四十間四面なりと知るべし

量地指南卷之二終



